

## II 奈良県のこども・子育てに関する現状

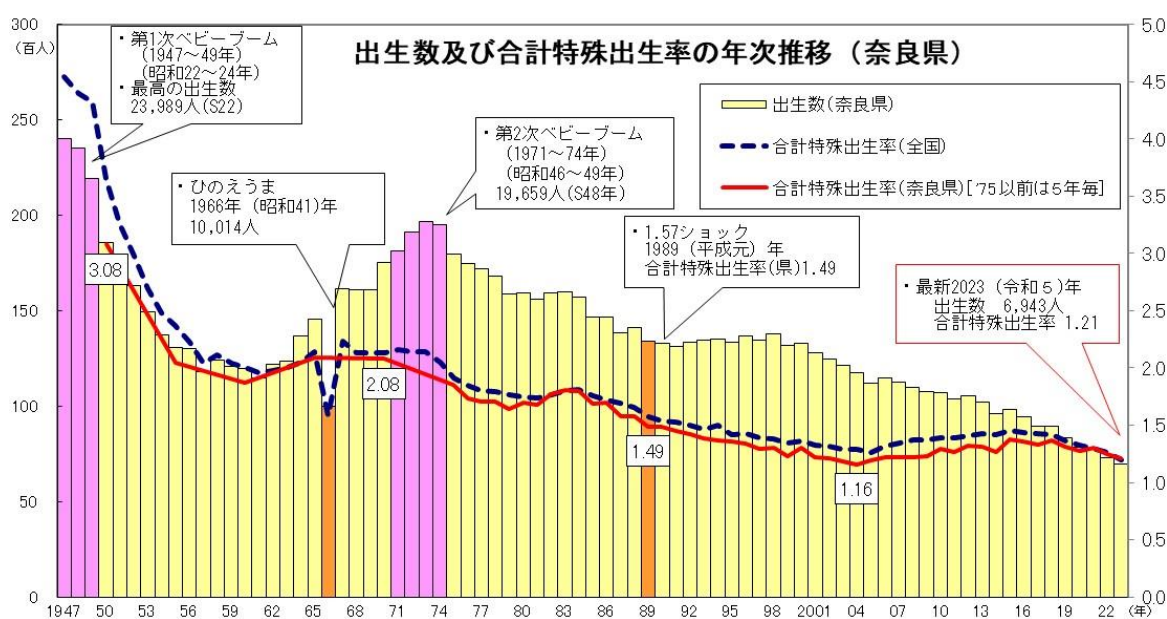
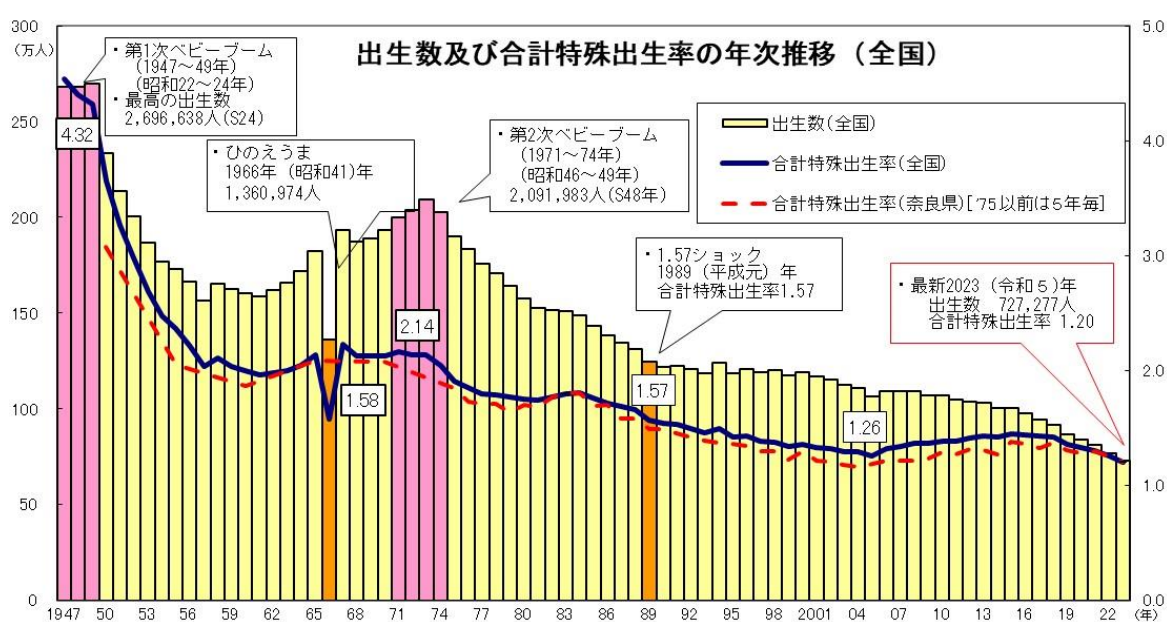
### 1. 少子化の現状

#### (1) 出生の状況

##### ■出生数と合計特殊出生率の推移

出生数及び合計特殊出生率は、奈良県、全国ともに1970年代の第2次ベビーブーム期以降長期的に低下傾向となっています。奈良県の出生数は、1970年代半ばには約2万人でしたが、1990年代には約1万3千人台で推移し、2023年の出生数は6,943人となりました。

奈良県の合計特殊出生率は、2004年には過去最低である1.16まで落ち込みましたが、近年は横ばい傾向が続き、2023年は1.21で全国35位となりました。



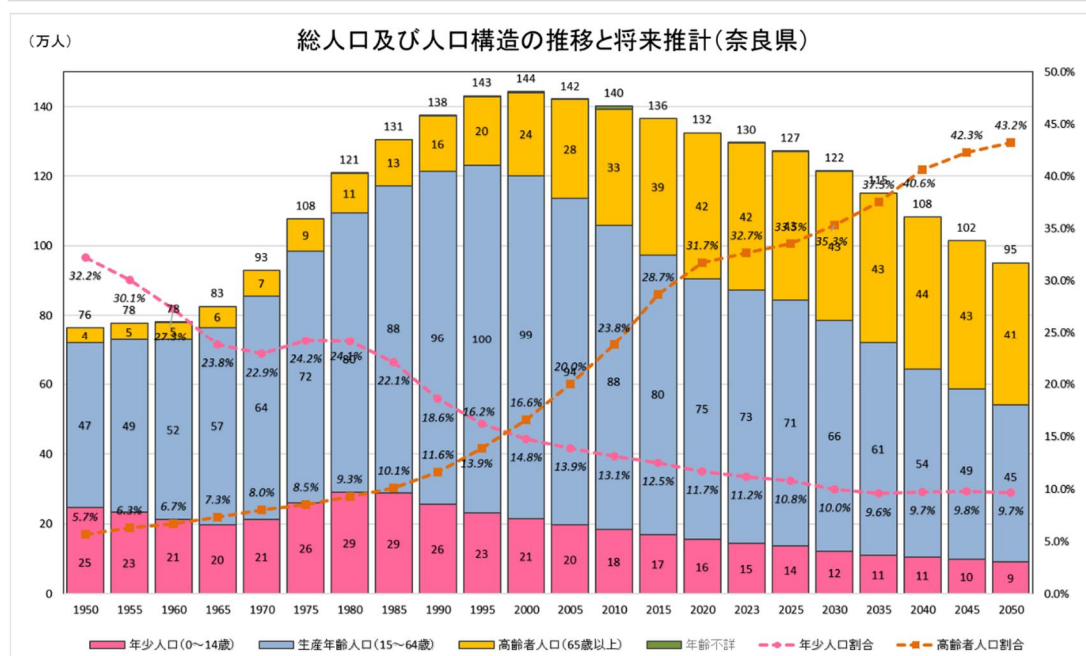
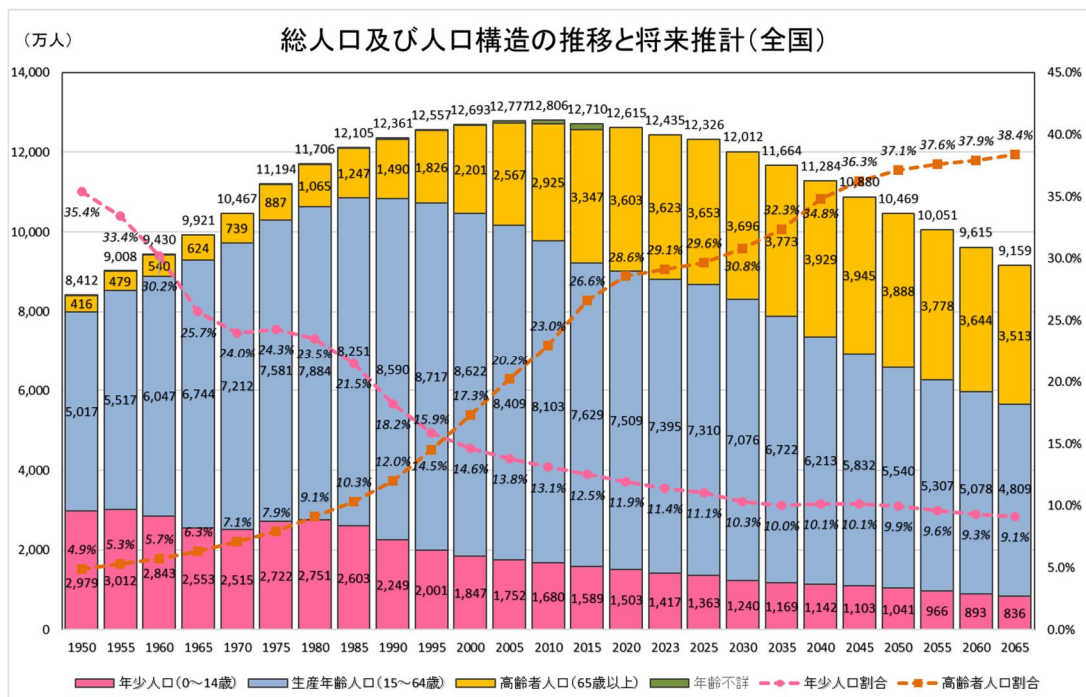
出典：厚生労働省「人口動態調査」

## (2) 将来の人口予測

### ■総人口及び人口構造の推移と将来推計

奈良県の総人口は、2000年をピークに減少し、2023年に130万人となりました。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、奈良県の総人口は、2045年には100万人を下回ると予測されています。また、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、高齢者人口（65歳以上）の、総人口に占める割合は、2050年には9.7%、47.1%、43.2%となり、人口の4割以上が高齢者人口となると予測されています。



出典：2020年までは総務省「国勢調査」、2023年は総務省「人口推計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

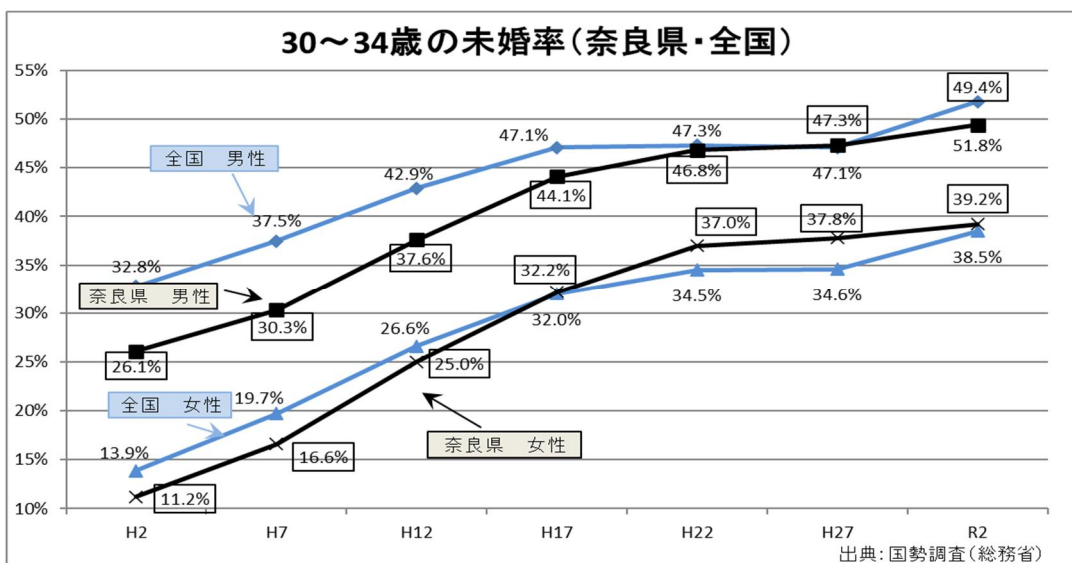
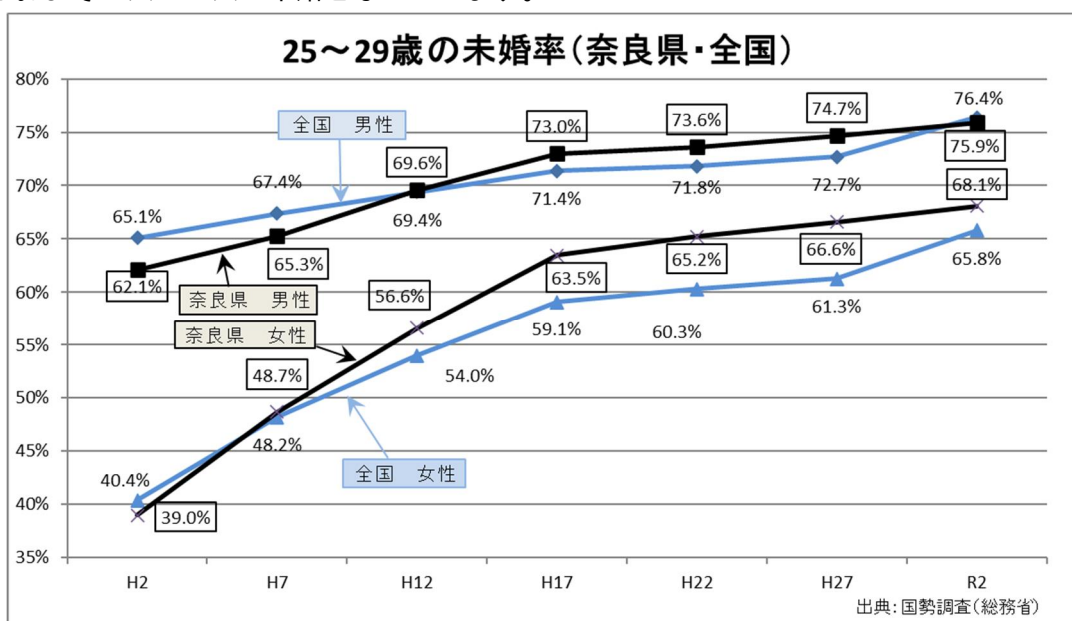
## 2. 少子化の要因

少子化の直接的な要因としては、我が国では婚外出生が極めて少ないことから、未婚化・晩婚化が原因といわれています。また、夫婦の出生こども数も減っている傾向にあります。合計特殊出生率の低下要因としては、未婚・非婚による有配偶率の低下の方がはるかに大きいといわれています。

### (1) 未婚化～未婚率の推移等～

#### ■ 5歳階級別未婚率の推移

奈良県の25～29歳の未婚率は7割程度で推移しており、令和2年の女性の未婚率は全国より2ポイント以上高くなっています。また、30～34歳では、男性はおよそ2人に1人、女性はおよそ3人に1人が未婚となっています。



## ■未婚率の全国順位

令和2年の25～39歳の未婚率は男性は52.2%で全国25位、女性は42.9%で全国6位と女性の未婚率は全国上位の状況です。25～29歳、30～34歳、35～39歳の年代別でも、女性の未婚率は全国上位です。

〔男性〕

都道府県	25～39歳 未婚率	順位	都道府県	25～29歳 未婚率	順位	都道府県	30～34歳 未婚率	順位	都道府県	35～39歳 未婚率	順位
全国	54.6%	—	全国	76.4%	—	全国	51.8%	—	全国	38.5%	—
東京都	61.7%	1位	東京都	83.4%	1位	東京都	58.8%	1位	東京都	43.5%	1位
神奈川県	57.4%	2位	京都府	79.7%	2位	神奈川県	54.3%	2位	青森県	41.0%	2位
奈良県	52.2%	25位	奈良県	75.9%	9位	奈良県	49.4%	24位	奈良県	36.1%	31位
宮崎県	47.0%	46位	長崎県	68.6%	46位	長崎県	44.6%	46位	宮崎県	32.4%	46位
鹿児島県	45.9%	47位	鹿児島県	68.4%	47位	鹿児島県	44.2%	47位	鹿児島県	31.5%	47位

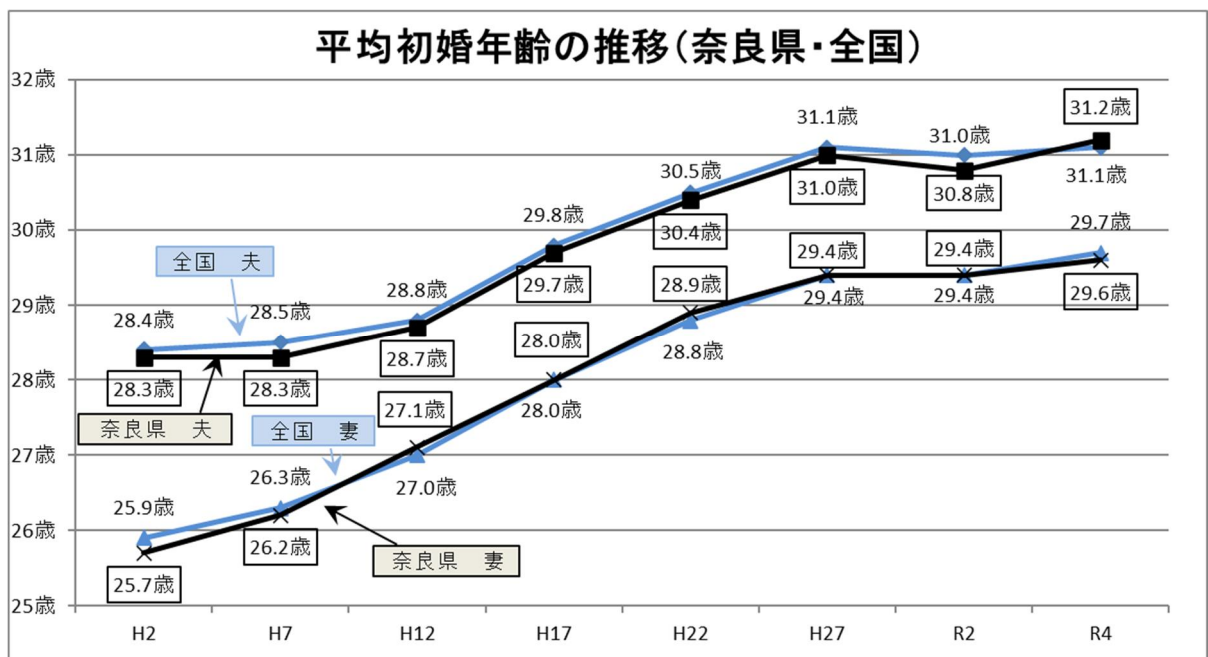
〔女性〕

都道府県	25～39歳 未婚率	順位	都道府県	25～29歳 未婚率	順位	都道府県	30～34歳 未婚率	順位	都道府県	35～39歳 未婚率	順位
全国	42.4%	—	全国	65.8%	—	全国	38.5%	—	全国	26.2%	—
東京都	52.2%	1位	東京都	75.5%	1位	東京都	48.0%	1位	東京都	33.3%	1位
京都府	47.5%	2位	京都府	71.4%	2位	京都府	43.1%	2位	京都府	29.9%	2位
奈良県	42.9%	6位	奈良県	68.1%	5位	奈良県	39.2%	8位	奈良県	26.2%	9位
宮崎県	36.0%	46位	山口県	57.4%	46位	三重県	32.3%	46位	福井県	20.8%	46位
島根県	35.6%	47位	島根県	57.3%	47位	愛知県	32.3%	46位	岐阜県	20.3%	47位

出典：総務省「令和2年国勢調査」

## (2) 晩婚化～平均初婚年齢の推移～

平均初婚年齢は長期的にみると、奈良県、全国、夫、妻ともに同水準で上昇を続け、晩婚化が進行しています。令和4年では奈良県は男性が31.2歳、女性が29.6歳で全国と同水準です。

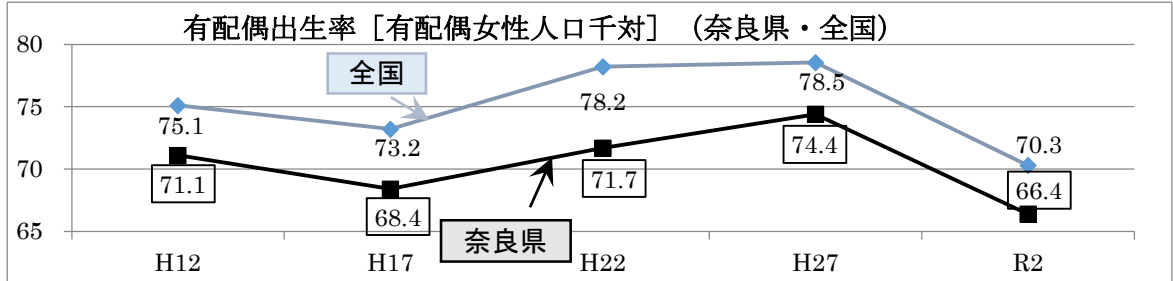


出典：厚生労働省「人口動態調査」

### (3) 夫婦のこども数

#### ■有配偶出生率の推移

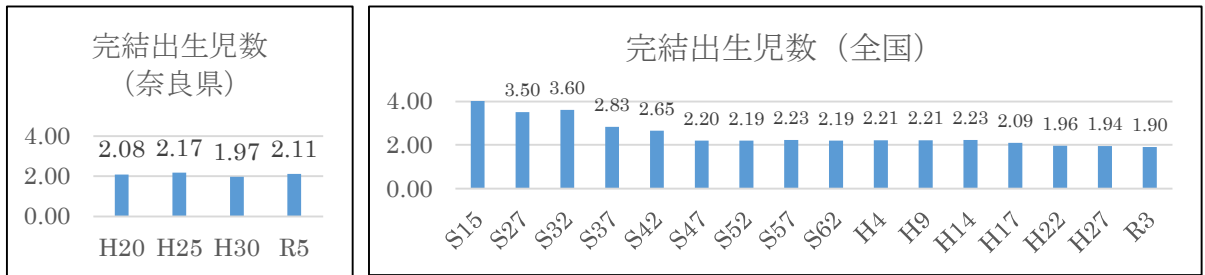
有配偶出生率（出生数を15～49歳の有配偶女性人口で除したもの）については、奈良県、全国ともに平成17年からは増加していたが、平成27年以降減少しており、令和2年の奈良県は66.4で全国より低い状況です。



出典：人口動態統計特殊報告（厚生労働省）、  
(H27 から地域少子化・働き方指標 [まち・ひと・しごと創生本部])

#### ■夫婦の平均出生児数（完結出生児数）

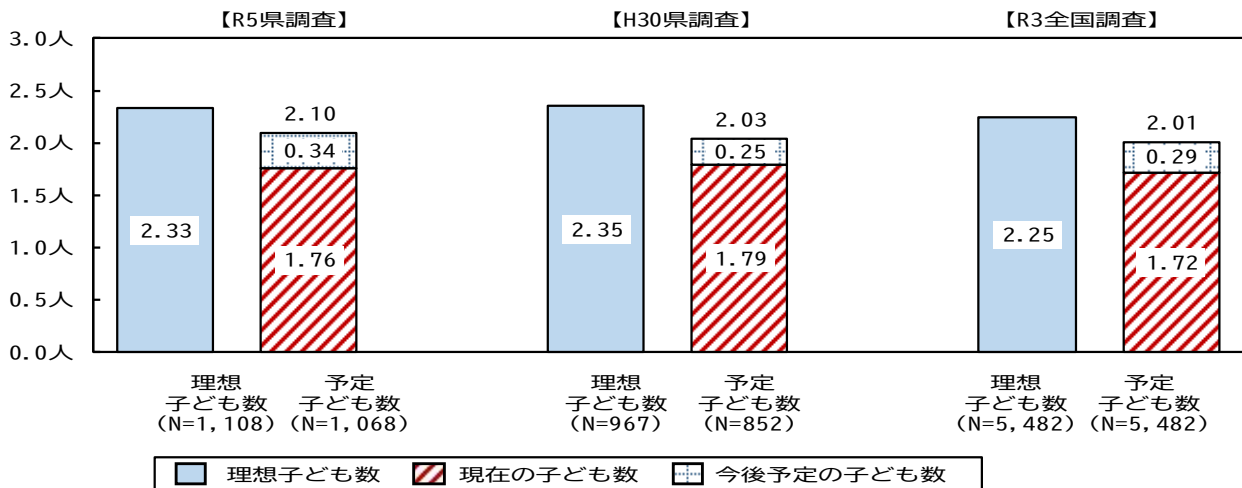
奈良県の結婚持続期間15～19年の夫婦（初婚同士）の平均出生児数（完結出生児数）は、2.11人（R5）で、全国平均の1.90人（R3）より高い状況です。



出典：出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）及び令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

#### ■理想及び出産予定のこども数

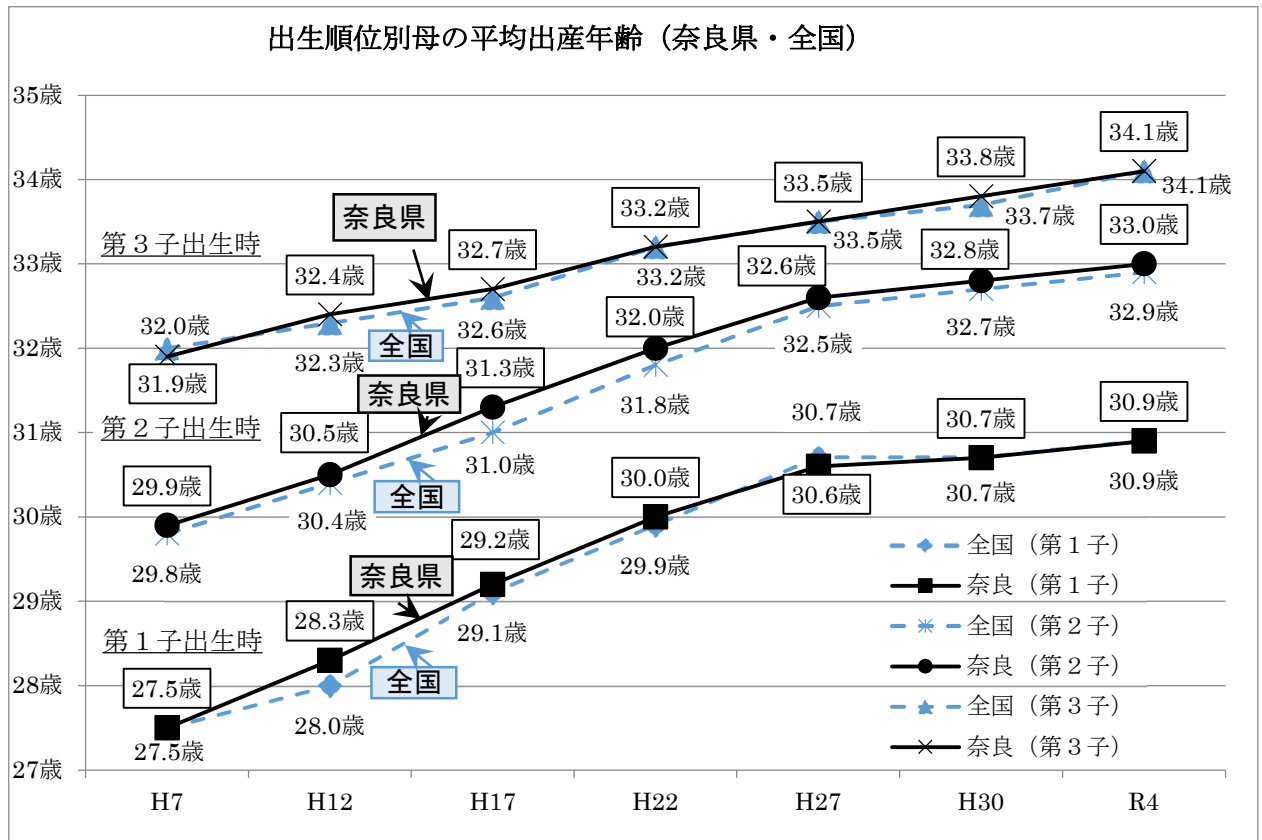
奈良県の夫婦が考える理想のこども数（平均）は2.33人ですが、予定しているこども数（平均）は2.10人で、その差は0.23人となっています。前回調査の差（0.32人）と比較すると、やや差が縮まっていますが、全国調査の差（0.24人）とは同水準です。



出典：出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）、令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

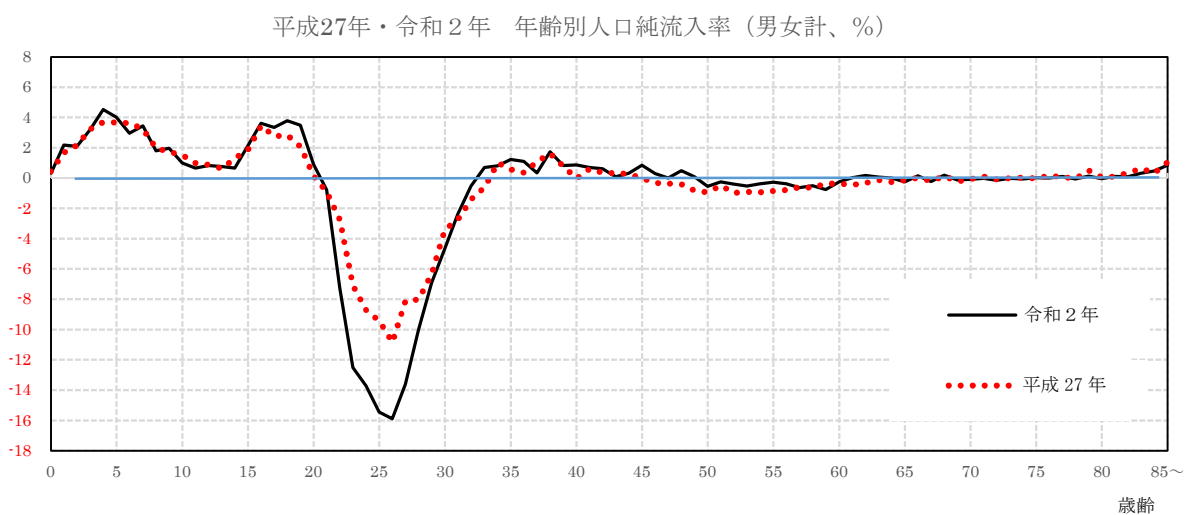
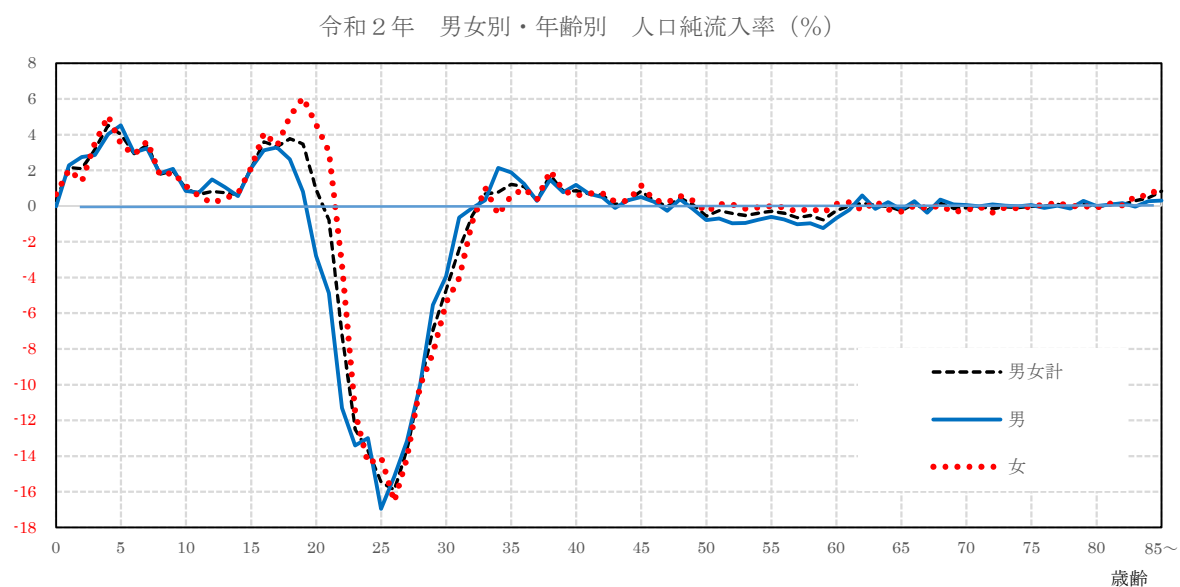
### ■晩産化～母の平均出産年齢の推移～

出生時の母親の平均年齢を出生順位別にみると、奈良県、全国ともに同水準で上昇しており、晩産化が進んでいます。令和4年では、奈良県の第1子出生時年齢は30.9歳で全国と同水準です。



#### (4) 若年層の流出

令和2年の県内大学入学率は25.4%で全国44位、県外就業率は27.3%で全国3位となっています。それに伴い、男女とも20歳~30歳頃の人口流出が大きくなっています。最も流入率の低い26歳の男女流入率は▲15.9%となっており、平成27年の▲10.8%と比べて5.1ポイント悪化しています。



出典：平成27年・令和2年国勢調査（常住者数に占める純流入の割合で算出）

### 3. こども・子育てを取り巻く現状

こども・子育てを取り巻く現状を、エビデンスに基づいた様々な奈良県にかかる調査結果をはじめ、奈良県だけでなく社会の課題となっていることも含め、子育て家庭、こども、若者に分け、とりまとめました。

#### (1) 子育て家庭を取り巻く現状

##### ① 子育て家庭の状況

##### <家庭状況の特徴（全国比較）>

本県の世帯や家庭状況の特徴的なこととしては、核家族世帯率が全国1位、そして専業主婦率も全国1位となっています。また、家事関連時間は女性が全国1位、男性は全国12位です。

##### ◇核家族世帯率・専業主婦率・家事関連時間

##### 【核家族世帯率】

都道府県	核家族世帯率	順位
全国	54.1%	—
奈良県	62.6%	1位
和歌山県	59.3%	2位
⋮		
山形県	51.0%	46位
東京都	45.7%	47位

出典：総務省「令和2年国勢調査」

##### 【専業主婦率】

都道府県	専業主婦率	順位
全国	27.4%	—
奈良県	33.3%	1位
神奈川県	29.9%	2位
⋮		
福井県	22.0%	46位
高知県	21.9%	47位

出典：総務省「令和2年国勢調査」

##### 【家事関連時間】

##### <女性>

都道府県	時間	順位
全国	212分	—
奈良県	238分	1位
滋賀県	236分	2位
⋮		
島根県	193分	46位
岩手県	192分	47位

##### <男性>

都道府県	時間	順位
全国	54分	—
埼玉県	60分	1位
新潟県	60分	1位
⋮		
奈良県	55分	12位
⋮		
青森県	47分	46位
石川県	38分	47位

※家事関連時間とは「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の合計

出典：総務省「令和3年社会生活基本調査」

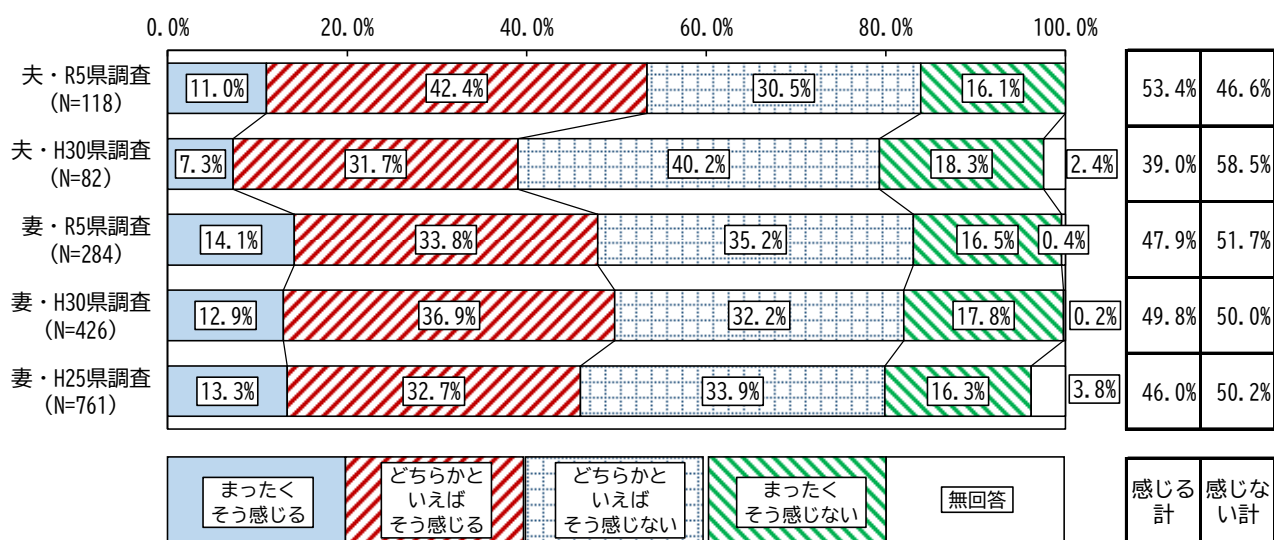


## <子育ての不安感・負担感>

### ■子育ての心理的・精神的な不安感・負担感

子育ての心理的・精神的な不安感・負担感を「まったくそう感じる」、「どちらかといえばそう感じる」の合計割合は、夫が53.4%、妻が47.9%と、前回（夫39.0%、妻49.8%）に比べ夫が14.4ポイント増加し、夫の方が妻より不安感・負担感を感じる割合が高くなりました。妻の不安感・負担感はわずかに減少しましたが、夫と妻のいずれも約半数が心理的・精神的な不安感・負担感を感じています。

### ◇心理的・精神的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



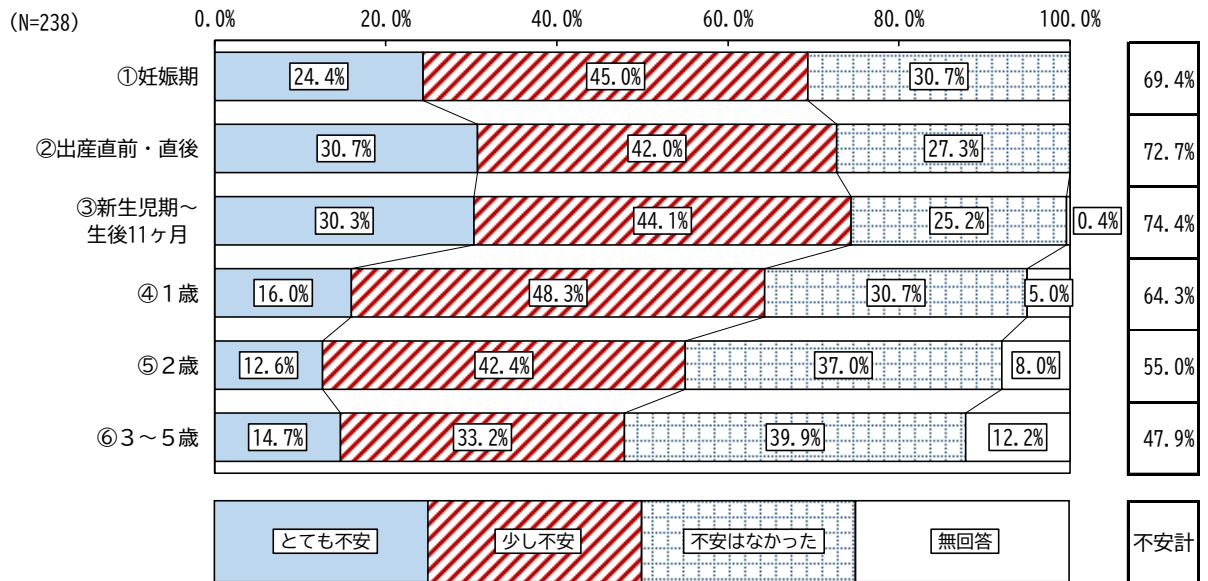
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

## ■最も子育てに不安を感じた時期とその要因

子育てに不安を感じた者の多い時期は、夫と妻のいずれも「出産直前・直後」や「新生児期～生後11ヶ月」の子育て早期でした。また、子育てに不安を感じた要因は、夫と妻のいずれも「子どもの成長や健康への悩みや不安」が最も多く（夫46.2%、妻46.0%）、次いで、夫は「出産や育児に費用がかかりすぎる」が44.1%、妻は「自分の自由な時間がない」が42.3%です。

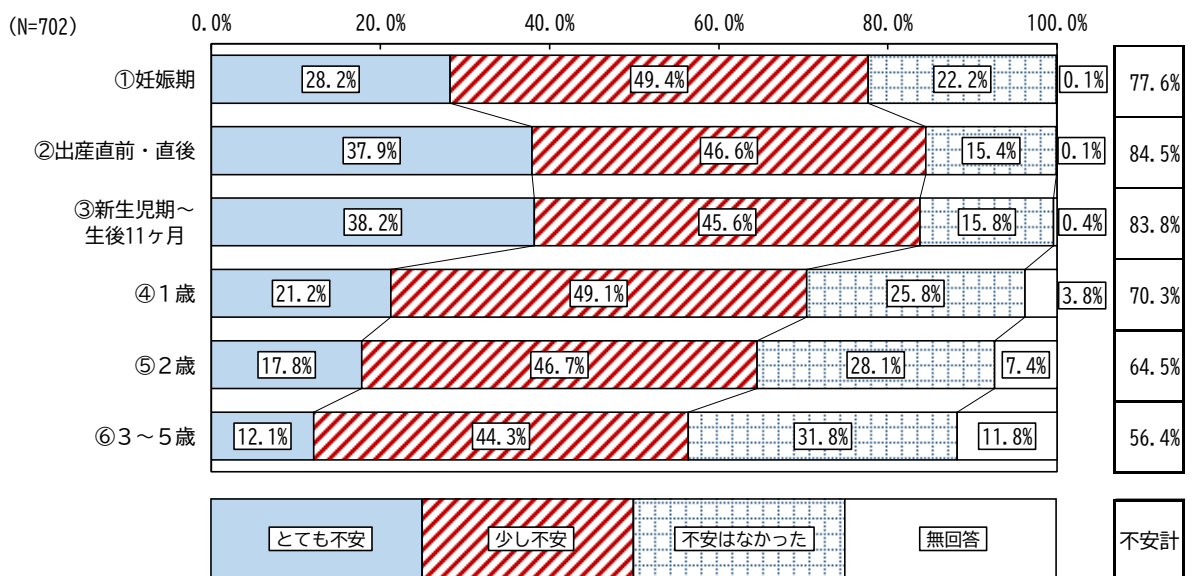
夫と妻を比べると、夫は「しつけの仕方がわからない」が4.7ポイント妻より高く、妻は「自分の自由な時間がない」が13.7ポイント、「パートナー（夫または妻）が家事や育児に協力的でない」が9.2ポイント夫より高くなっています。

### ◇各時期の子育てに対する不安感・負担感（夫）



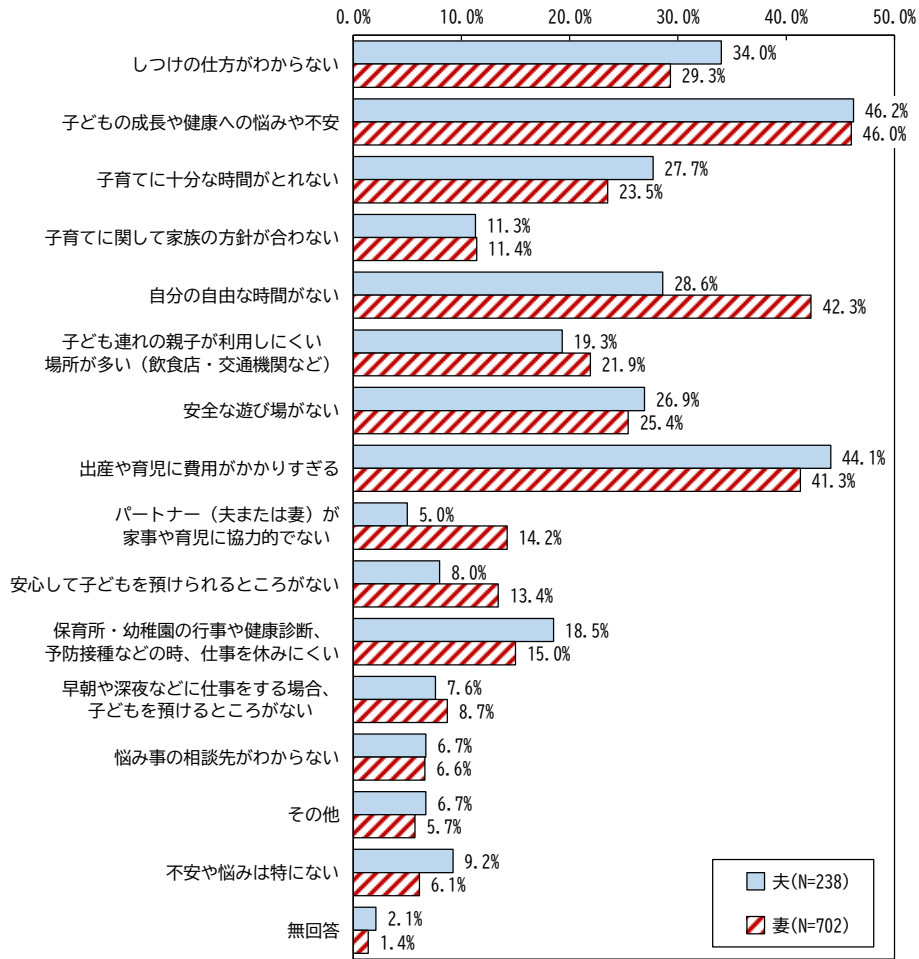
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ◇各時期の子育てに対する不安感・負担感（妻）



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ◇子育てに対する不安や悩み

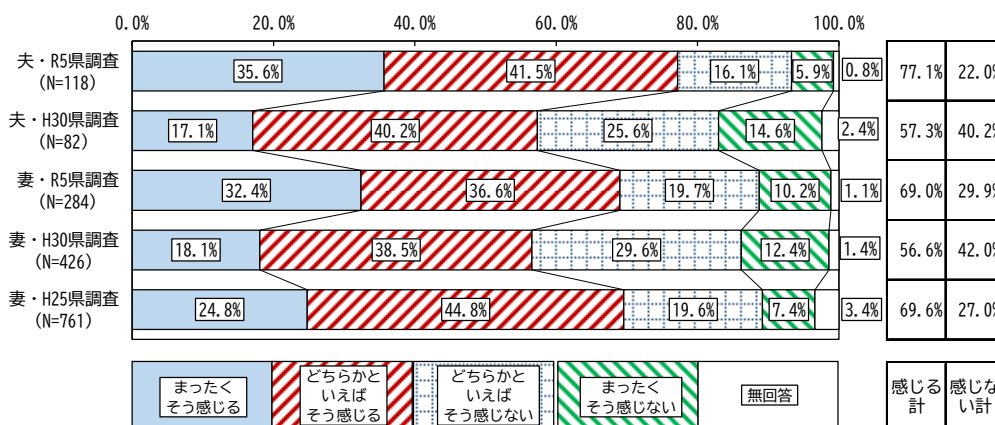


出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ■子育ての金銭的・経済的な不安感・負担感

子育ての金銭的・経済的な不安感・負担感を「まったくそう感じる」、「どちらかといえばそう感じる」の合計割合は、夫が77.1%、妻が69.0%と、前回(夫57.3%、妻56.6%)に比べ夫と妻のいずれも大きく増加しました。また、夫の方が妻より不安感・負担感を感じる割合が8.1ポイント高くなっています。

### ◇金銭的・経済的な不安感・負担感(6歳未満の子どもがいる家庭)

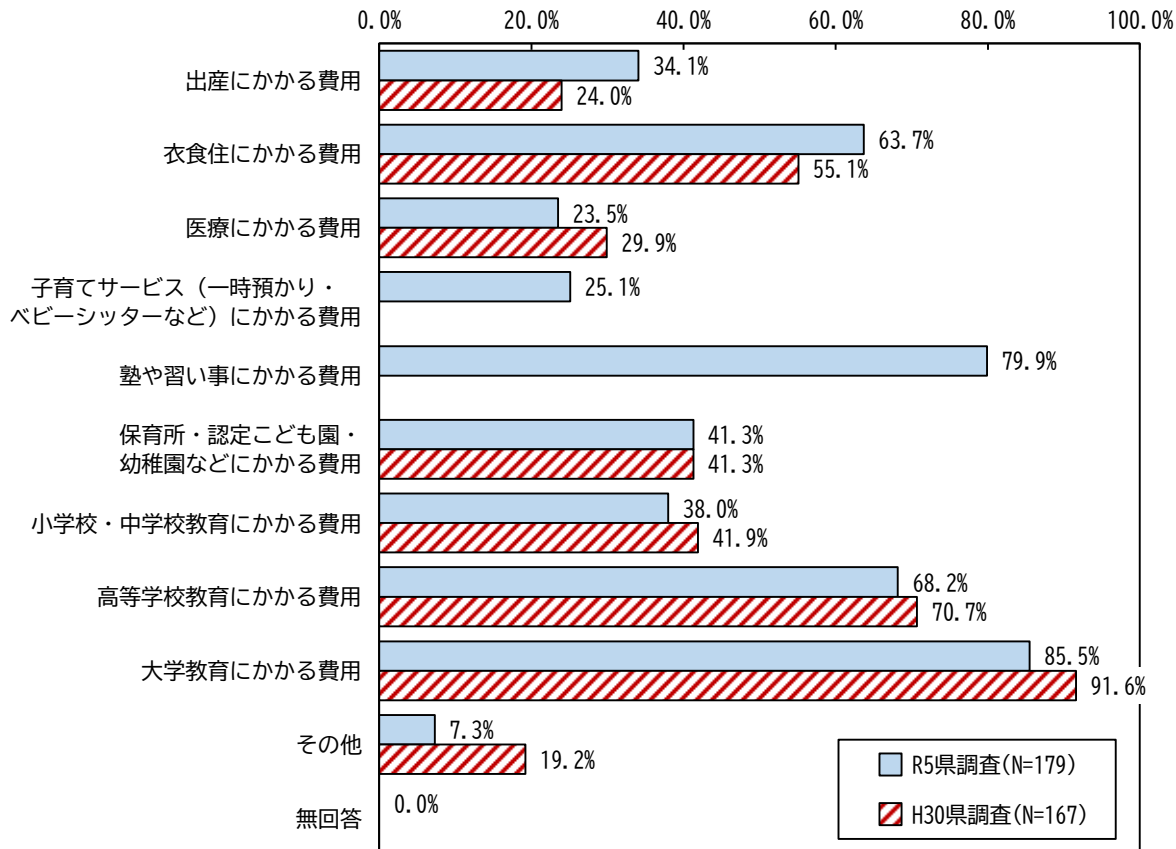


出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

■理想の子ども数を持たない理由～子育てや教育にかかるお金～

奈良県の夫婦が考える理想の子ども数（平均2.33人）と予定している子ども数（平均2.10人）には差がありますが、その理由の1位が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（57.7%）です。さらに、その要因の1位は「大学教育にかかる費用」、次いで「塾や習い事にかかる費用」となっています。

◇子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因



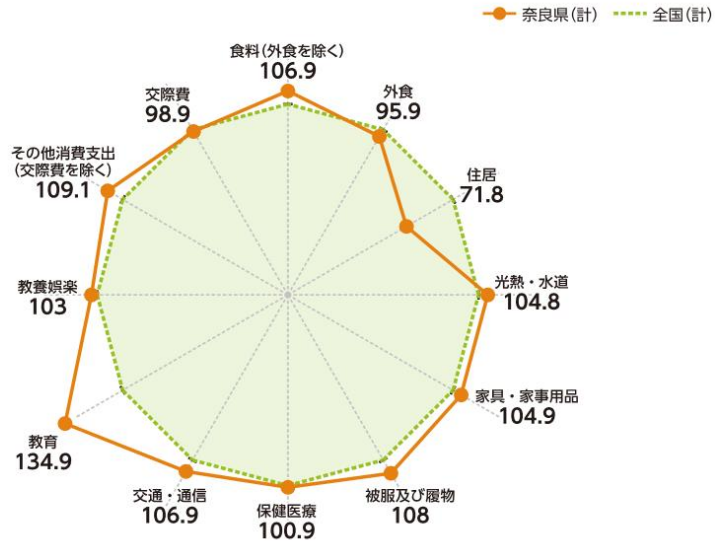
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

**(参考) 進学状況 (全国比較)**

本県の大学等進学率は高く、男性が全国8位、女性が全国7位の状況です。(令和4年度学校基本調査)

また、費目別消費支出をみると、12費目のうち教育費は突出して高いのが特徴です。

【全国を100とした奈良県の費目別消費支出】(二人以上の世帯)

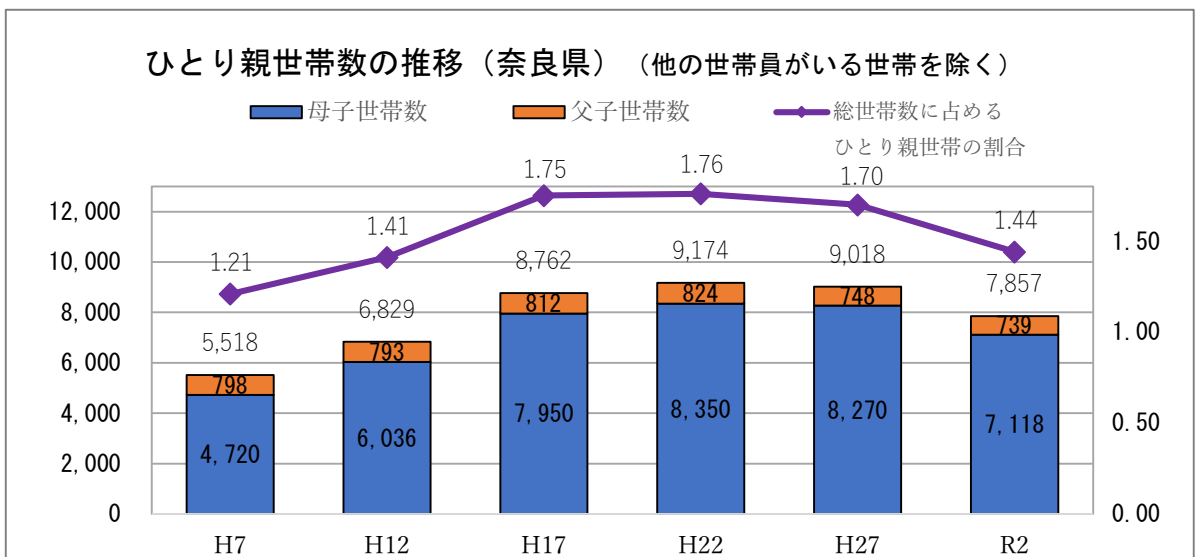


出典：総務省統計局「2019年全国家計構造調査」

**②ひとり親家庭の状況**

**■ひとり親世帯数の推移**

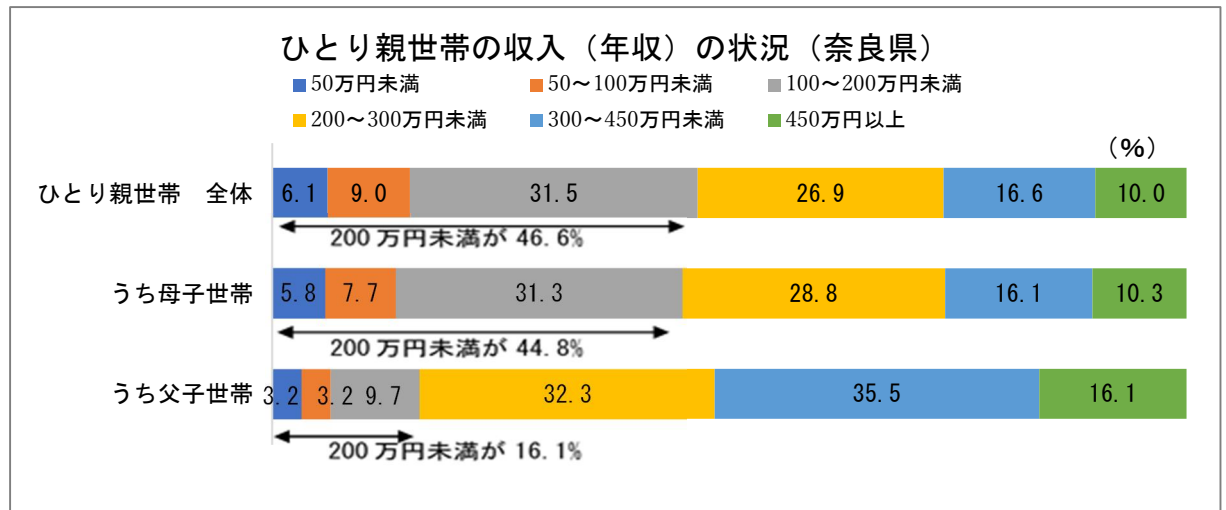
奈良県のひとり親世帯数や総世帯数に占める割合は増加傾向にありましたが、近年は横ばい傾向となっています。



出典：総務省「令和2年国勢調査」

## ■ひとり親世帯の収入（年収）の状況

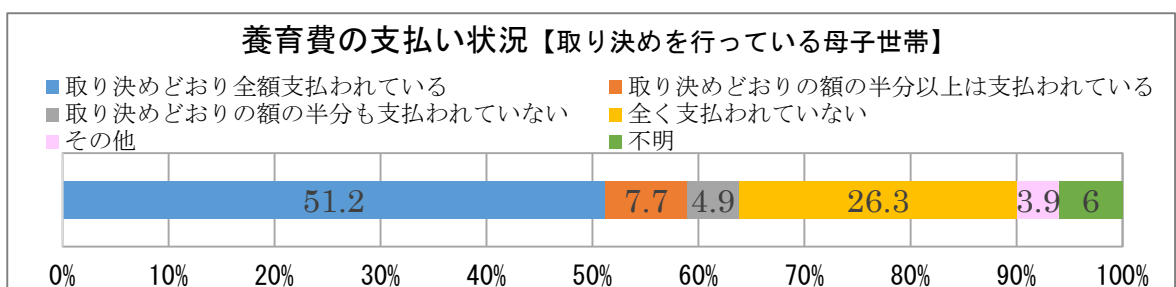
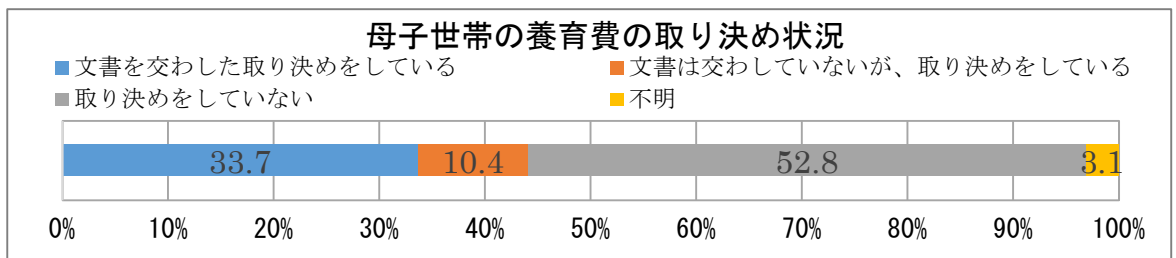
ひとり親世帯の父及び母の約9割が就労しているものの、年収が200万円未満の世帯が46.6%を占めており、特に母子世帯にあつては44.8%となっています。



出典：令和元年度奈良県子どもの生活に関する実態調査

## ■ひとり親世帯（母子世帯）の養育費の確保状況

母子世帯では、52.8%が養育費の取り決めを行っていません。養育費の取り決めを行っている母子世帯では、「取り決めどおり全額支払われている」が51.2%、「全く支払われない」が26.3%となっています。



出典：令和元年度奈良県子どもの生活に関する実態調査

## ■ひとり親世帯の子育ての悩み

調査項目	世帯	奈良県の現状	
子どもについての悩み	母子	1位：学習・進学 (59.5%)	2位：しつけ (24.6%)
	父子	1位：学習・進学 (55.9%)	2位：しつけ (23.5%)
悩みの相談相手	母子	適当な相談相手がない (5.8%)	だれにも相談しない (6.0%)
	父子	適当な相談相手がない (5.9%)	だれにも相談しない (14.7%)

出典：令和元年度奈良県子どもの生活に関する実態調査

### ③子育て家庭の就労状況

#### <女性の就労状況>

奈良県の20～64歳の女性の就業率は70.6%（R2年・全国74.9%）で全国最下位の状況で、次いで兵庫県・大阪府が低くなっています。

女性の年齢階級別就業率（M字カーブ）は全国ではM字のくぼみの底上げが進み台形に近づいています。奈良県の35～39歳の就業率は全国最下位であるものの、過去5年間で7.0ポイント上昇しました。

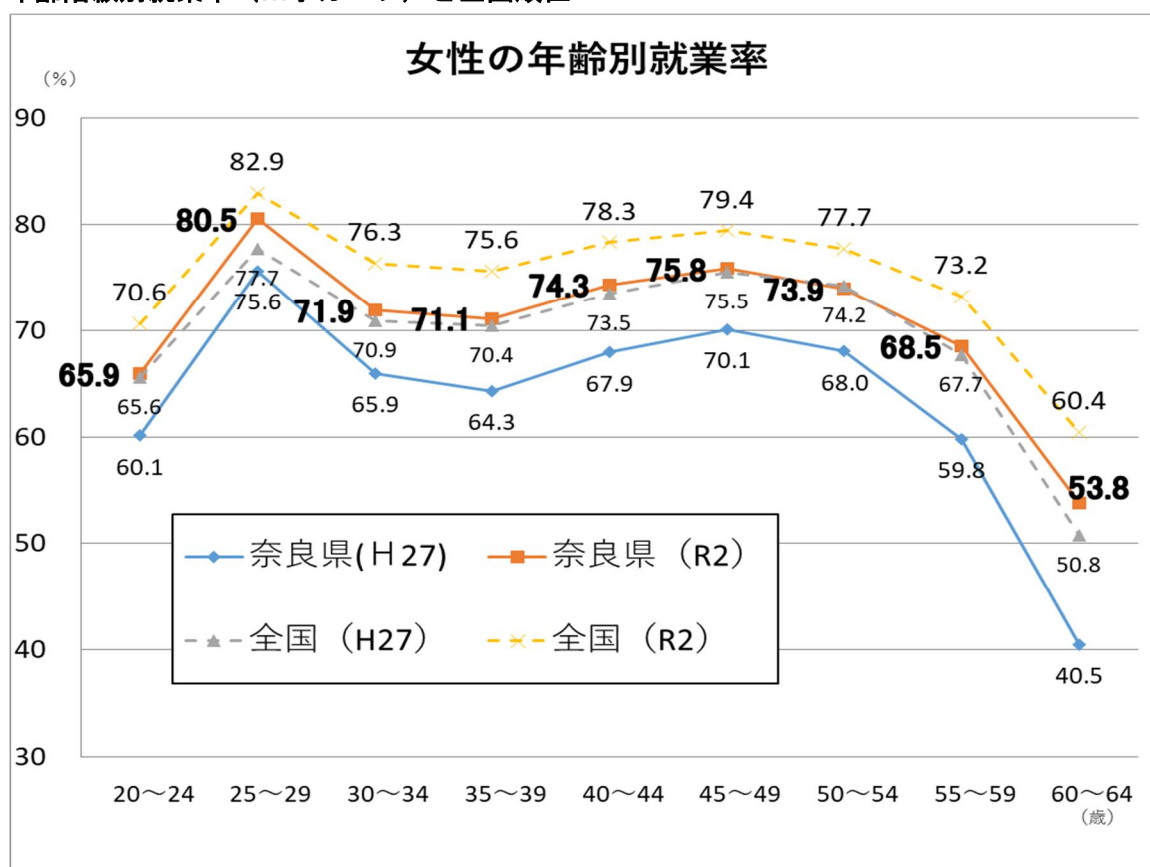
夫婦の就労状況を見ると、現在就労している妻の割合は75.1%、無職（学生含む）の妻の割合は19.3%となっています。就労している妻のうち、「正規職員」の割合が34.2%で最も多く、次いで、「パート・アルバイト」が28.9%となっています。「パート・アルバイト」と「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用の割合は33.5%です。

一方、現在就労している夫の割合は91.9%で、「正規職員」が78.7%で最も多く、次いで、「自営業主」が10.3%となっています。「パート・アルバイト」と「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用の割合は2.3%です。

妻が、第1子出産後も仕事を辞めずに働き続けている割合は、52.8%から58.4%に増加しました。

仕事を辞めた理由の1位は「家事・子育てに専念したかったから」（45.9%）となっています。

#### ◇年齢階級別就業率（M字カーブ）と全国順位



出典：総務省「令和2年国勢調査」

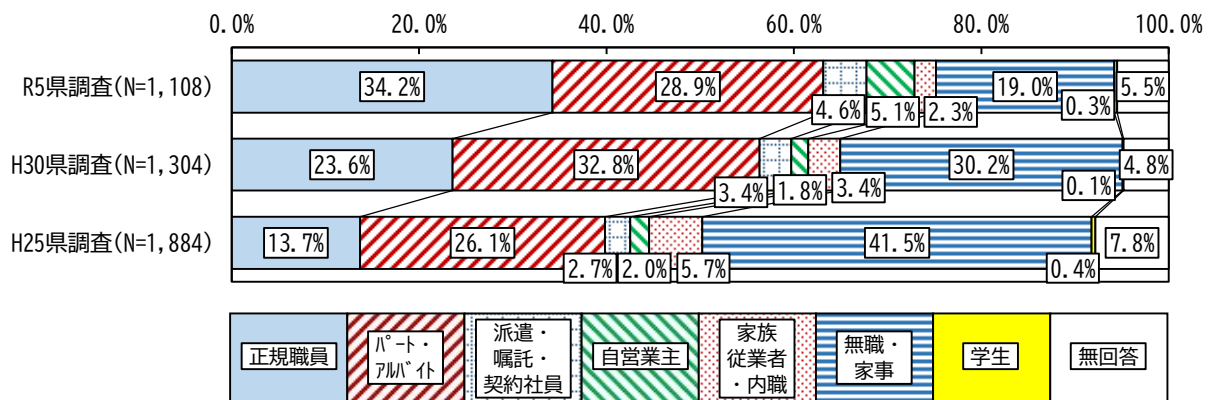
◇女性の就業率と伸び（平成27年比）

都道府県	女性の就業率	順位	都道府県	就業率の伸び	順位
全国	74.9%	—	全国	5.3%	—
島根県	82.7%	1位	奈良県	7.0%	1位
福井県	82.1%	2位	大阪府	6.5%	2位
山形県	81.4%	3位	兵庫県	6.2%	3位
⋮			⋮		
大阪府	72.4%	45位	富山県	3.9%	45位
兵庫県	72.2%	46位	島根県	3.8%	46位
奈良県	70.6%	47位	石川県	3.6%	47位

※20～64歳の女性

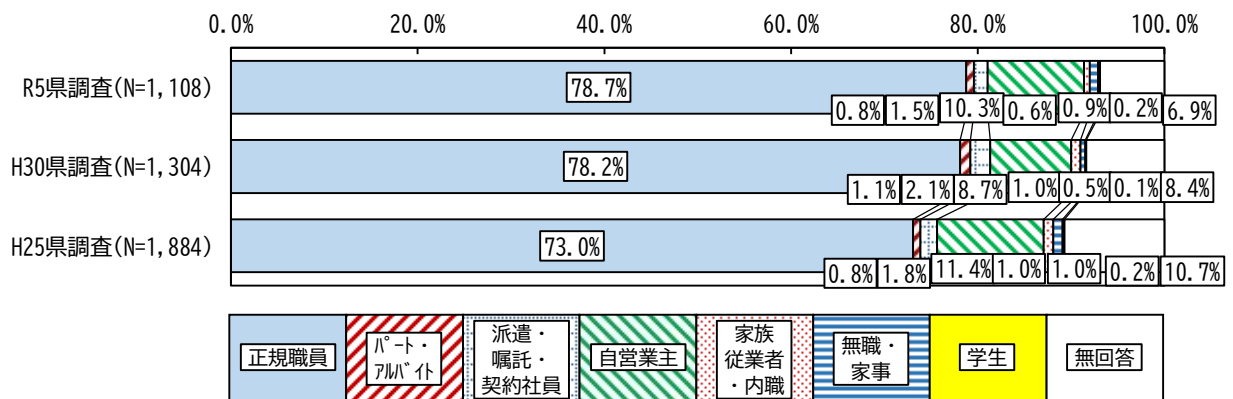
出典：総務省「令和2年国勢調査」

◇現在の就労状況（妻）



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

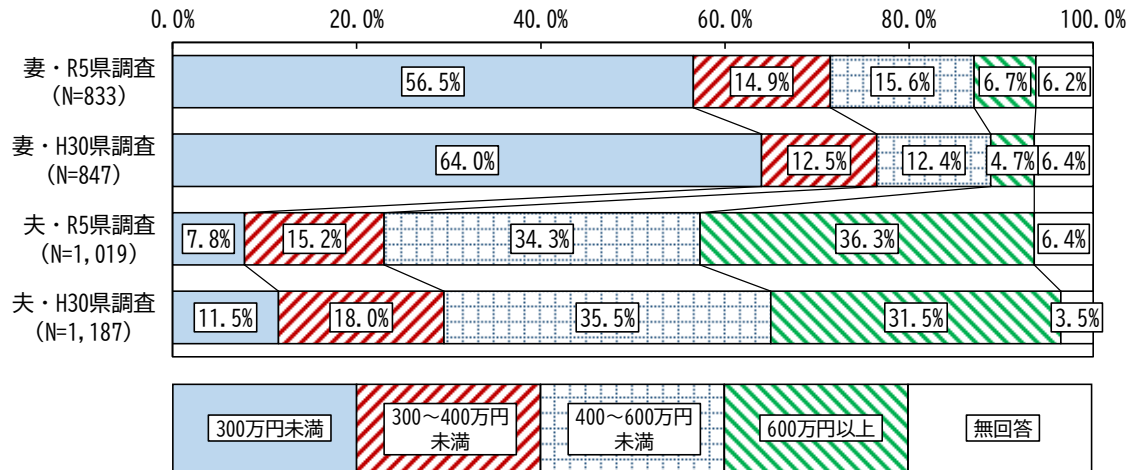
◇現在の就労状況（夫）



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査



### ◇年間の収入



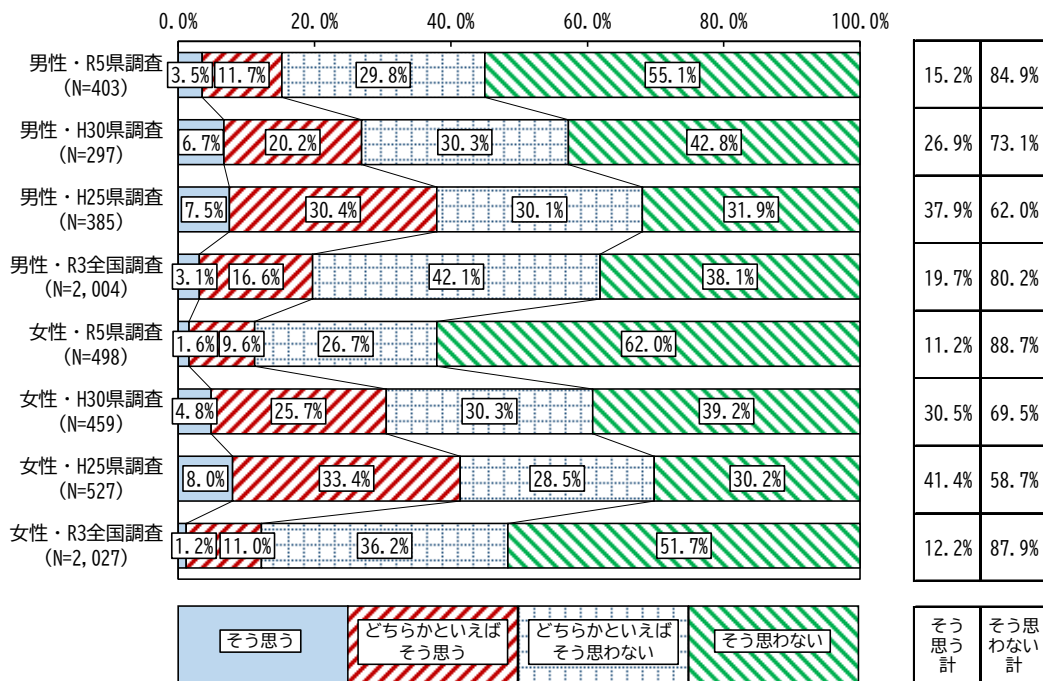
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### <固定的性別役割分担意識と働き方>

「夫が外で働き、妻が家を守る」という「固定的性別役割分担意識」を持つ割合は、女性の有業率・男性の長期間労働に相関関係があり、この意識を持つ割合が高いほど有業率が低く、また男性の長時間労働の割合は高い傾向にあります。

奈良県では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計割合が、男性は15.2%となっており、前回調査（平成30年）に比べて11.7ポイント低下しています。女性は11.2%となっており、前回調査に比べて19.3ポイント低下しています。

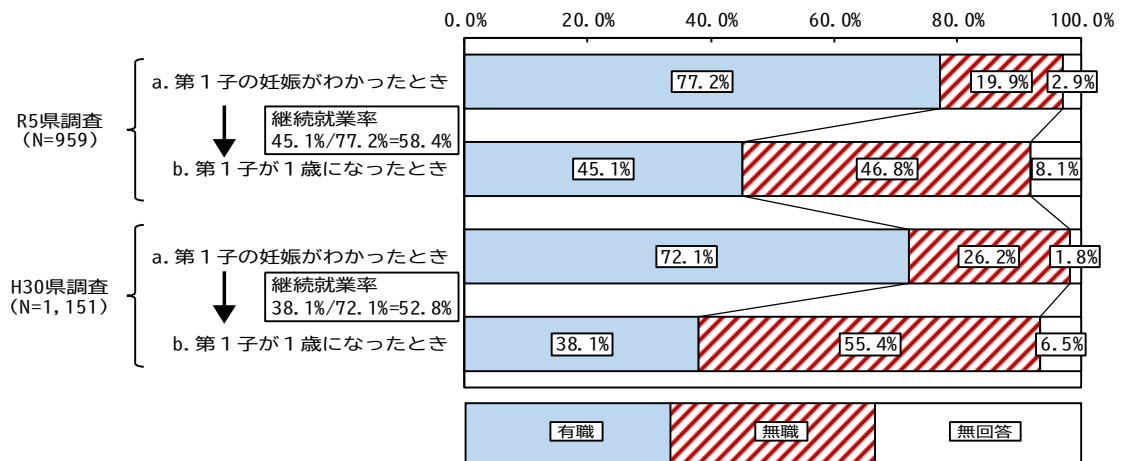
### ◇固定的性別役割分担意識について（夫は外で働き、妻は家庭を守るべきか）



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

## ◇第1子出産前後の妻の就労状況

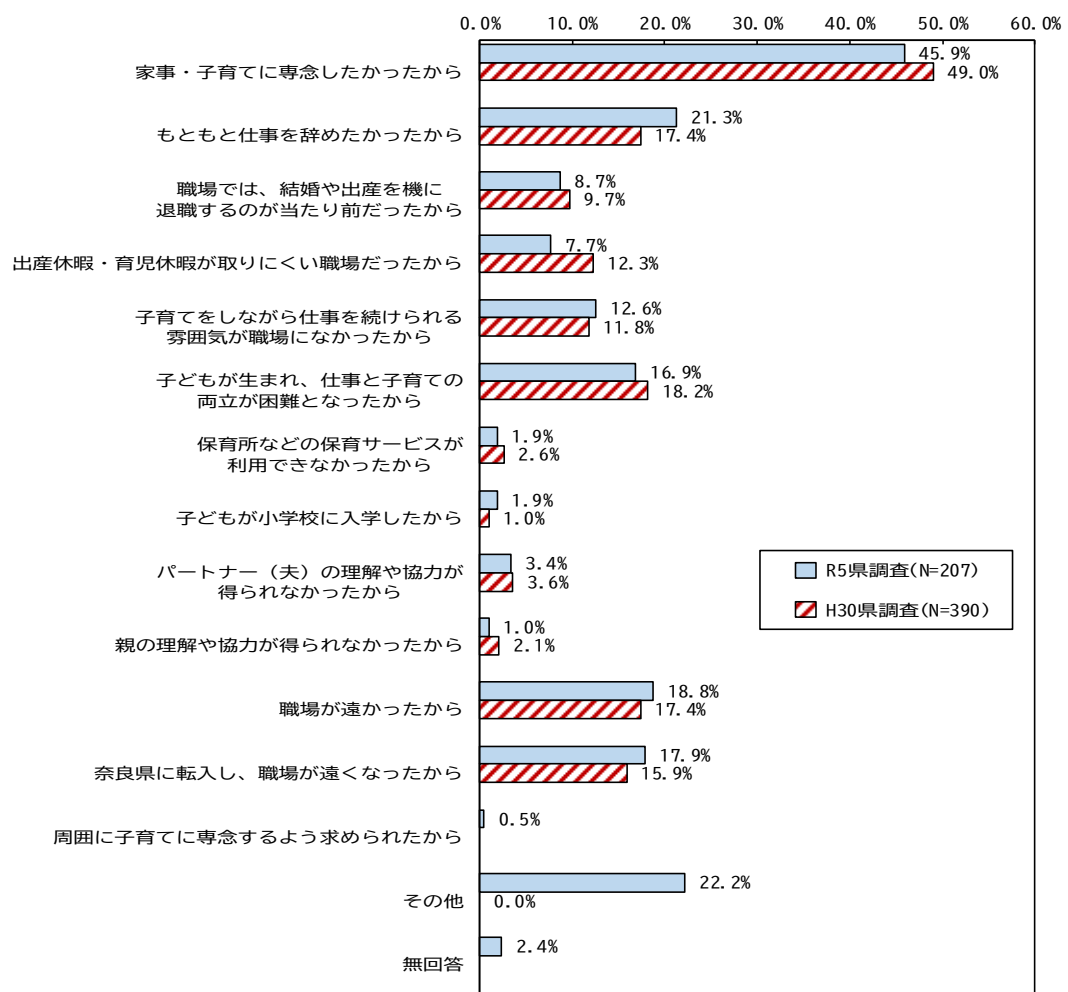
第1子出産前後の妻の継続就業率は58.4%と、前回（52.8%）から増加しています。



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

## ◇妻が仕事を辞めた理由

「家事・子育てに専念したかったから」が45.9%と最も多く、「出産休暇・育児休暇が取りにくい職場だったから」が前回と比べ4.6ポイント低下しています。

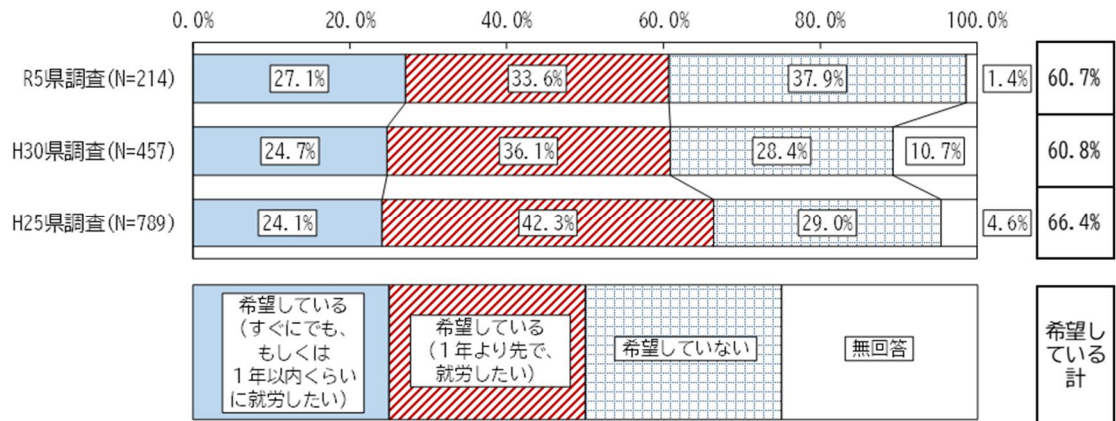


出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### <未就労の妻の就労意向>

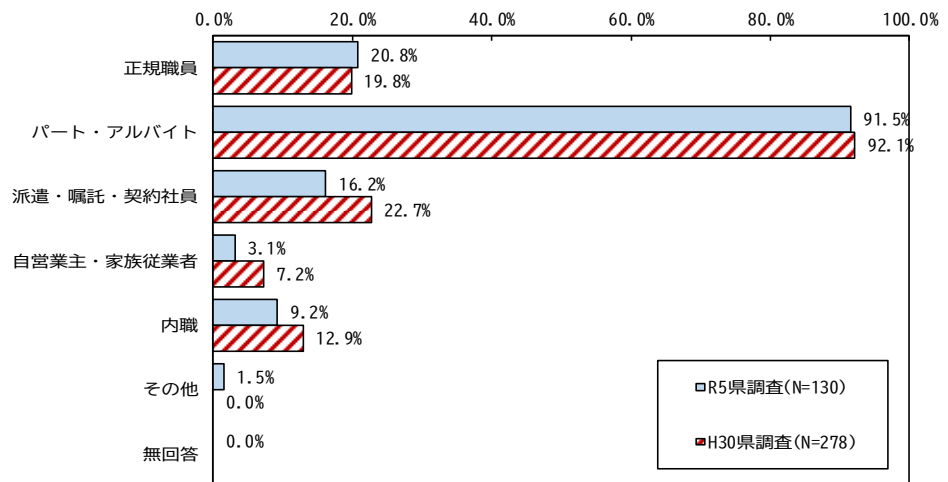
未就労の妻の60.7%が今後就労を希望し、就労形態は「パート・アルバイト」が最も多く、希望勤務地は前回と比べ「居住市町村（自宅外）」が5.1ポイント、「自宅」が4.0ポイント増加しています。

#### ◇就労意向



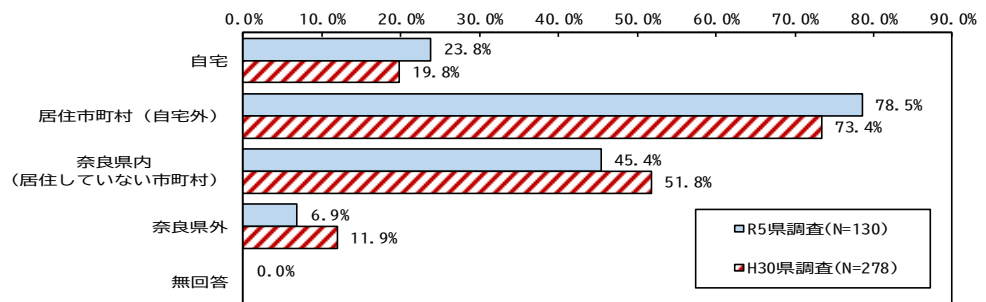
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

#### ◇希望就労形態



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

#### ◇希望勤務地



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

## <男性の就労状況>

### ■男性の働き方

奈良県の男性の帰宅時間は19時00分と遅く全国15位です。また長時間労働（週60時間以上勤務）の男性雇用者の割合が8.7%で全国5位です。

#### ◇帰宅時間・週60時間以上勤務割合

都道府県	帰宅時間	順位
全国	19:08	—
東京都	19:43	1位
千葉県	19:29	2位
神奈川県	19:29	2位
奈良県	19:00	15位
栃木県	18:56	16位
山形県	18:55	17位
新潟県	18:55	17位
島根県	18:19	46位
高知県	18:04	47位

出典：総務省  
「令和3年社会生活基本調査」

都道府県	週60時間以上勤務割合	順位
全国	7.9%	—
北海道	9.7%	1位
京都府	9.4%	2位
福岡県	8.8%	3位
埼玉県	8.8%	4位
奈良県	8.7%	5位
大阪府	8.5%	6位
秋田県	5.3%	46位
沖縄県	4.9%	47位

出典：総務省  
「令和4年就業構造基本調査」

### ■男性の育児休業

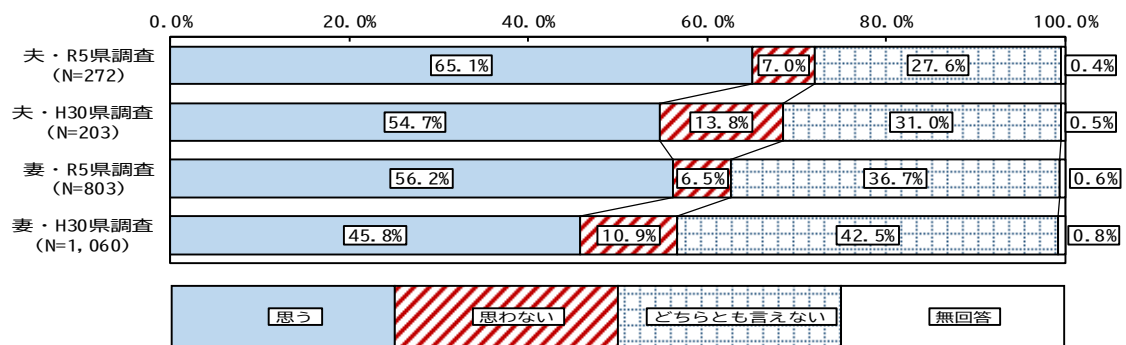
男性の育児休業取得率は全国平均より高く上昇傾向にあるものの、女性と比べ依然低い状況です。また、夫の65.1%が育休を取得した方が良いと考えている一方、実際の取得率は24.6%と大きな乖離があります。

#### ◇育児休業取得率

		H29	H30	R1	R2	R3	R4
全国	男性	5.1%	6.2%	7.5%	12.7%	14.0%	17.1%
	女性	83.2%	82.2%	83.0%	81.6%	85.1%	85.1%
奈良県	男性	3.2%	5.0%	2.0%	14.3%	9.4%	24.6%
	女性	93.0%	92.4%	67.5%	89.2%	82.9%	94.8%

出典：厚生労働省「雇用均等基本調査」、奈良県「職場環境調査」

#### ◇父親の育児休暇・休業取得への考え（取った方が良いと思うか）



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

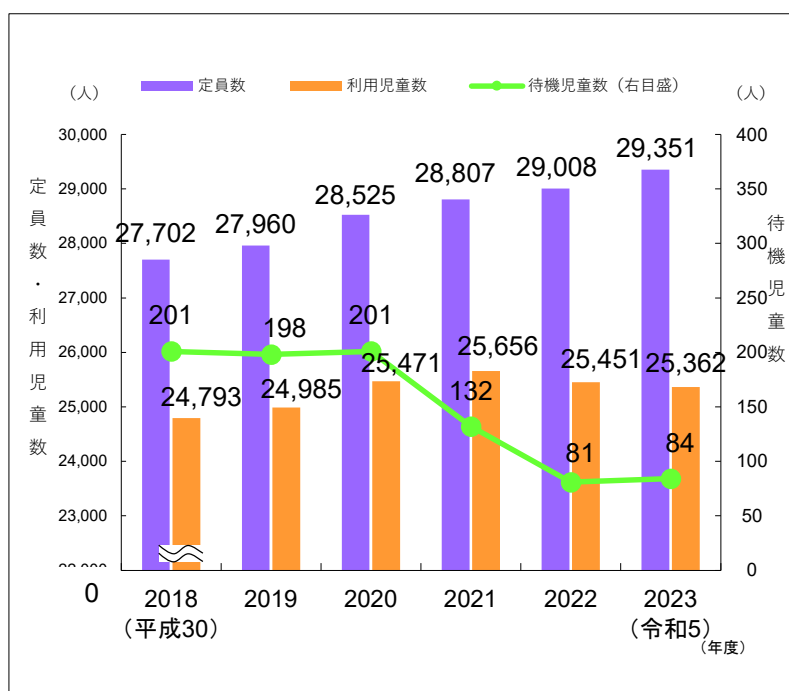
#### ④保育所等・放課後児童クラブの状況

##### <保育等の状況>

保育所等（※）の整備により、定員数は増加したものの、受皿の拡大に伴い潜在的な保育ニーズが掘り起こされることや恒常的な保育士不足から都市部を中心に待機児童が発生しています。

また、放課後児童クラブ登録児童数も増加傾向で、待機児童数は毎年約100人前後で推移しています。どちらも、令和元年10月から始まった幼児教育・保育の無償化による影響も含め、今後も利用ニーズが増加することが予想されます。

##### ◇保育所等定員数・利用児童数及び待機児童数の推移

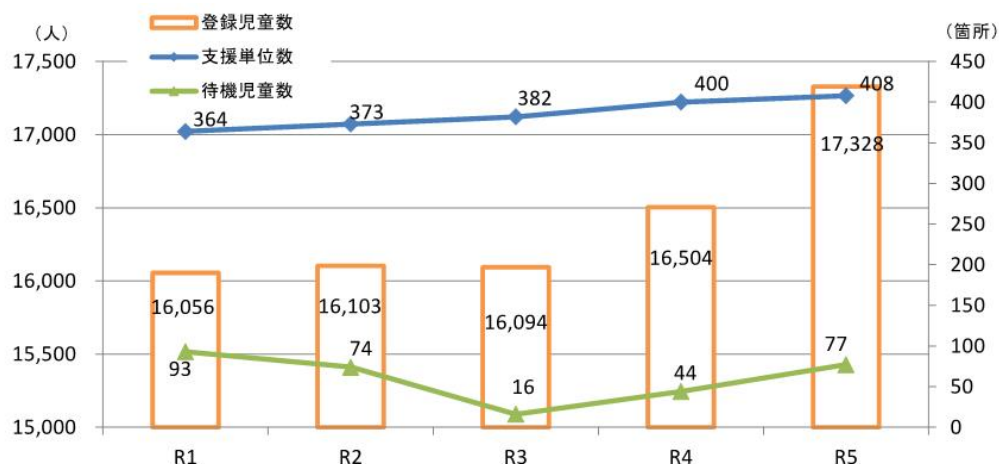


市町村名	待機児童数(人)	
	R4	R5
大和高田市	13	25
奈良市	8	16
安堵町	0	5
斑鳩町	1	5
橿原市	1	2
葛城市	10	11
宇陀市	0	1
計	33	65

出典：奈良県子ども保育課調べ

※「保育所等」は、保育所（保育所型認定こども園の保育所機能部分含む）、幼保連携型認定こども園（保育所機能部分のみ）、幼稚園型認定こども園（保育所機能部分のみ）、地域型保育事業

##### ◇放課後児童クラブ数、登録児童数及び待機児童数の推移



出典：奈良県子ども保育課調べ

## (2) こどもを取り巻く現状

### ① こどもの健康・体力・学習意欲の状況

奈良県のこどもの1週間の総運動時間をみると、60分未満の割合は、小学5年生男子で9.7%（全国平均9.0%）、小学5年生女子で18.3%（全国平均16.2%）、中学2年生男子で12.2%（全国平均11.3%）、中学2年生女子で27.4%（全国平均25.1%）と、概ね全国平均を上回っている状況です。（令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査より）

児童生徒の学習意欲については、国語または算数・数学の学習意欲に関する項目の回答状況（「好き」「大切」「分かる」「将来役に立つ」の相加平均）をみると、小学6年生で82.3%（全国平均83.0%）、中学3年生で74.6%（全国平均76.7%）と全国平均を下回っている状況です。（令和5年度全国学力・学習状況調査より）

### ② こどもにかかる地域の状況

こども食堂は、ここ数年で増加し、県内143箇所（令和6年3月末現在）で設置されています。

また、県民アンケート調査では、子育てのための遊び場等の満足度やこどものための事業の満足度については、「満たされていない」と感じる人が多い状況です。

#### ◇こども食堂設置数（市町村ごとの設置場所）

市町村名	団体数	市町村名	団体数	市町村名	団体数
奈良市	34	宇陀市	6	王寺町	4
大和高田市	7	葛城市	2	広陵町	2
大和郡山市	14	平群町	3	河合町	2
天理市	18	斑鳩町	4	吉野町	2
橿原市	10	安堵町	1	大淀町	2
桜井市	7	川西町	1	下市町	1
五條市	5	三宅町	2	東吉野村	1
御所市	4	田原本町	2	合計	143
生駒市	1	明日香村	1		
香芝市	5	上牧町	2		

出典：奈良県こども家庭課調べ

#### ◇こども関連事業への満足度

○子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実：「満たされていない」…62.2%

○自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動などこどものための事業：

「満たされていない」…56.6%

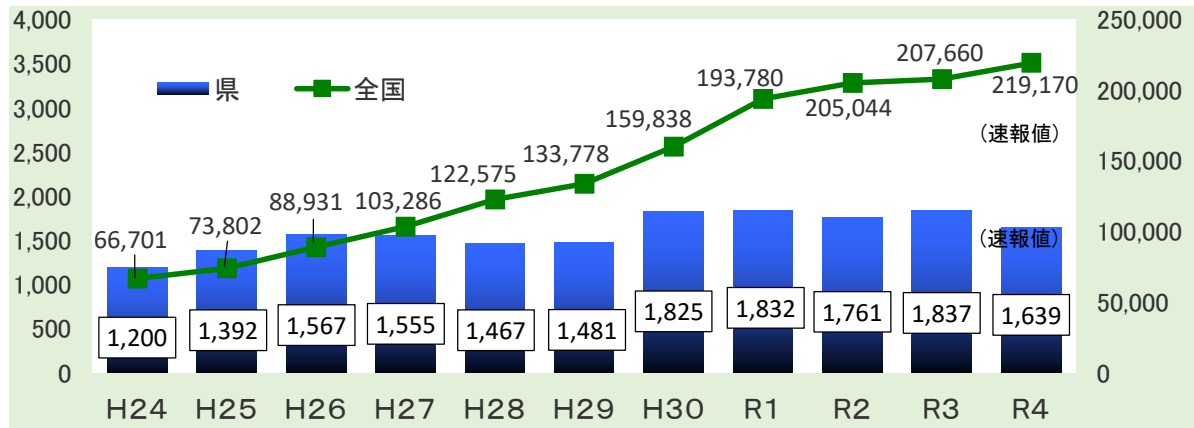
※「どちらかといえば満たされていない」「ほとんど満たされていない」の合計

出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ③児童虐待の状況

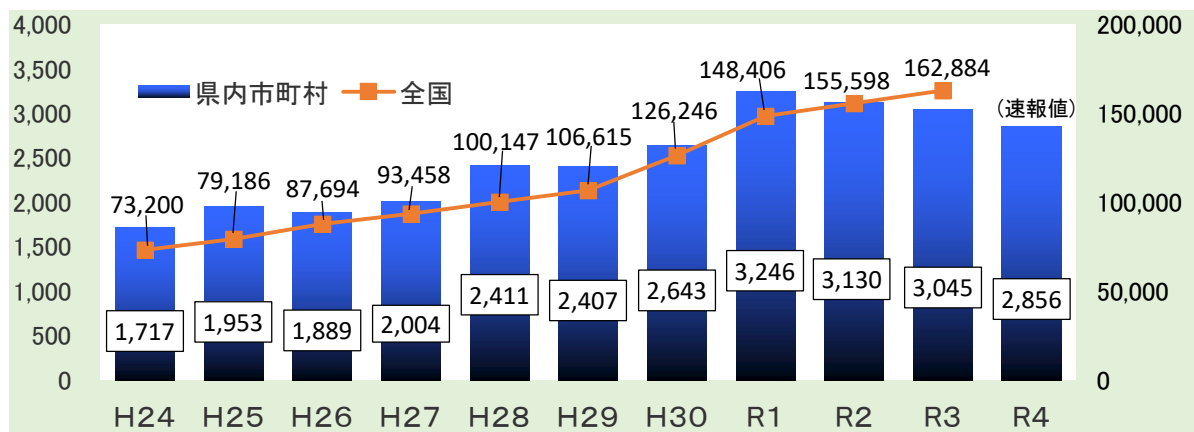
奈良県の児童相談所における児童虐待相談対応件数は、令和3年度に過去最多件数を更新しましたが、令和4年度は減少に転じています。県内市町村の児童虐待相談対応件数は、令和元年度に過去最多件数を更新しましたが、令和2年度から減少傾向です。令和4年度の児童相談所における相談対応件数の内訳は、心理的虐待が807件で一番多く、主な虐待者の94.1%が実親となっています。

#### ◇児童虐待相談対応件数の推移（児童相談所分）



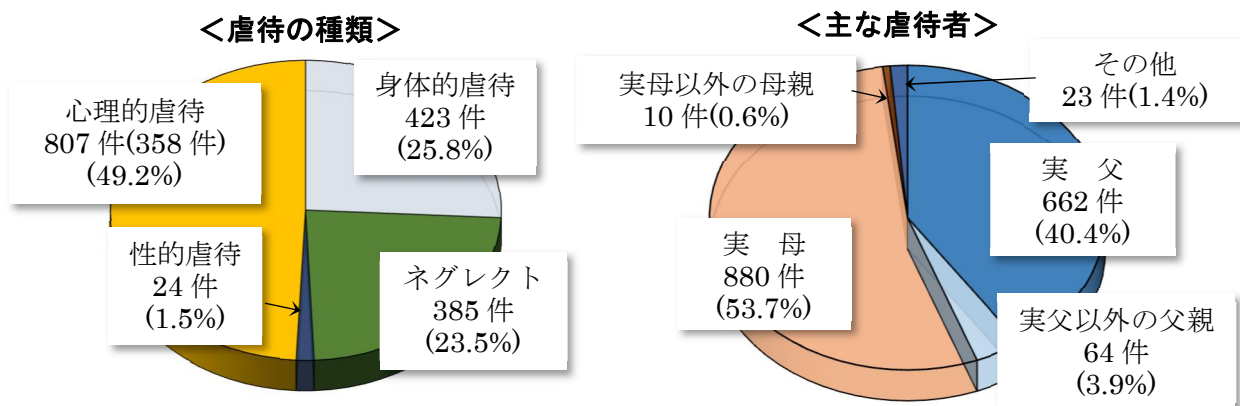
出典：奈良県子ども家庭課調べ

#### ◇児童虐待相談対応件数の推移（市町村分）



出典：奈良県子ども家庭課調べ

#### ◇虐待の種類と主な虐待者（児童相談所分）



※心理的虐待の（ ）内は面前DVの数

出典：奈良県子ども家庭課調べ（令和4年度）

### (3) 若者の現状

#### ① 若者の結婚に関する意識

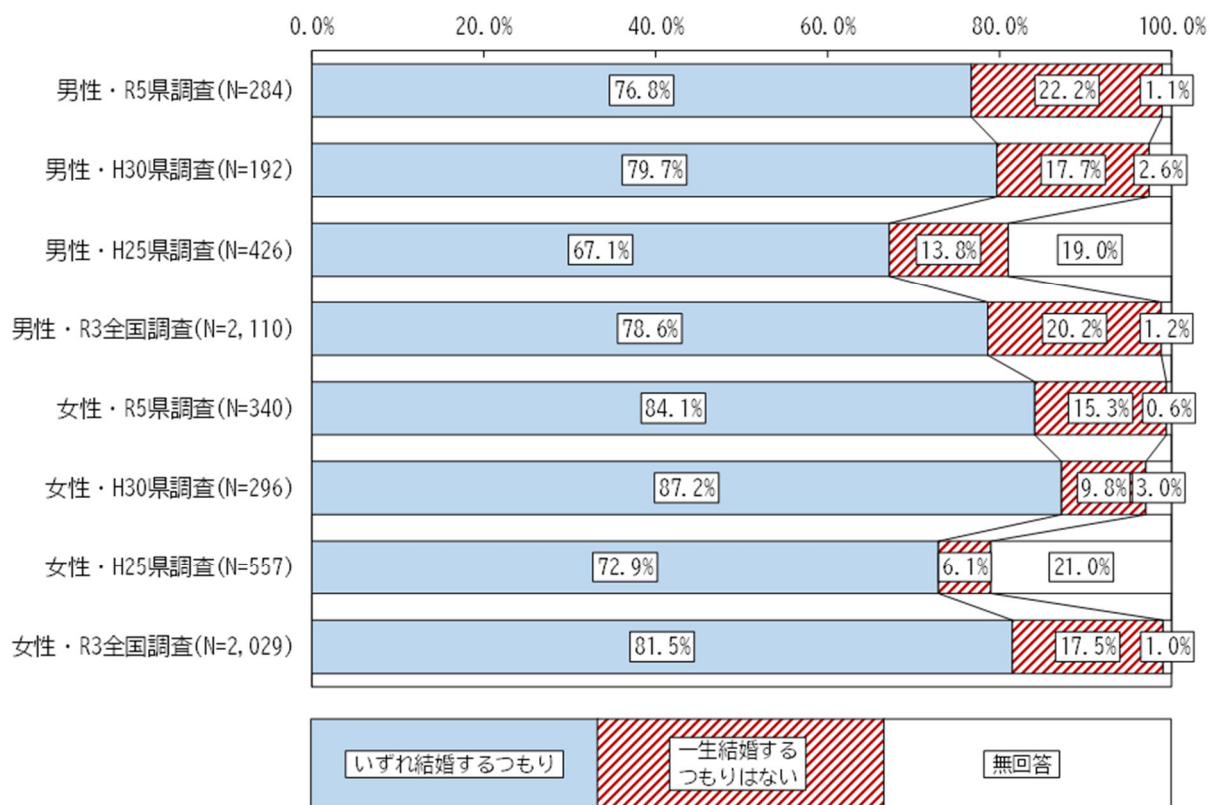
結婚経験のない20～39歳の結婚意欲をみると、「いずれ結婚するつもり」と回答した人が、男性が76.8%、女性が84.1%と男女ともに結婚意欲は高く、その割合は全国と比べてもほぼ同程度です。

理想的な初婚年齢は「26～30歳」が最も多く、次いで「31歳～35歳」となっています。一方、既婚者の理想的な初婚年齢は「26～30歳」の次に「21歳～25歳」が多く、既婚者と比べて未婚者の理想的な初婚年齢が高い傾向にあります。

独身でいる理由の1位は男女とも全国同様「適当な相手にまだめぐり合わないから」ですが、次の理由として、男性は「家庭をもつほどの収入がないから」、女性は「結婚する必要性をまだ感じないから」となっています。また、男女ともに「異性とうまくつき合えないから」が増加傾向となっています。

行政による結婚支援施策に対しては、取り組んで欲しいという意見が、男性で69.3%、女性64.1%と高く、期待する結婚支援策は、「出会いの場の提供」が最も高くなっています。

#### ◇いずれ結婚しようとする未婚者の割合

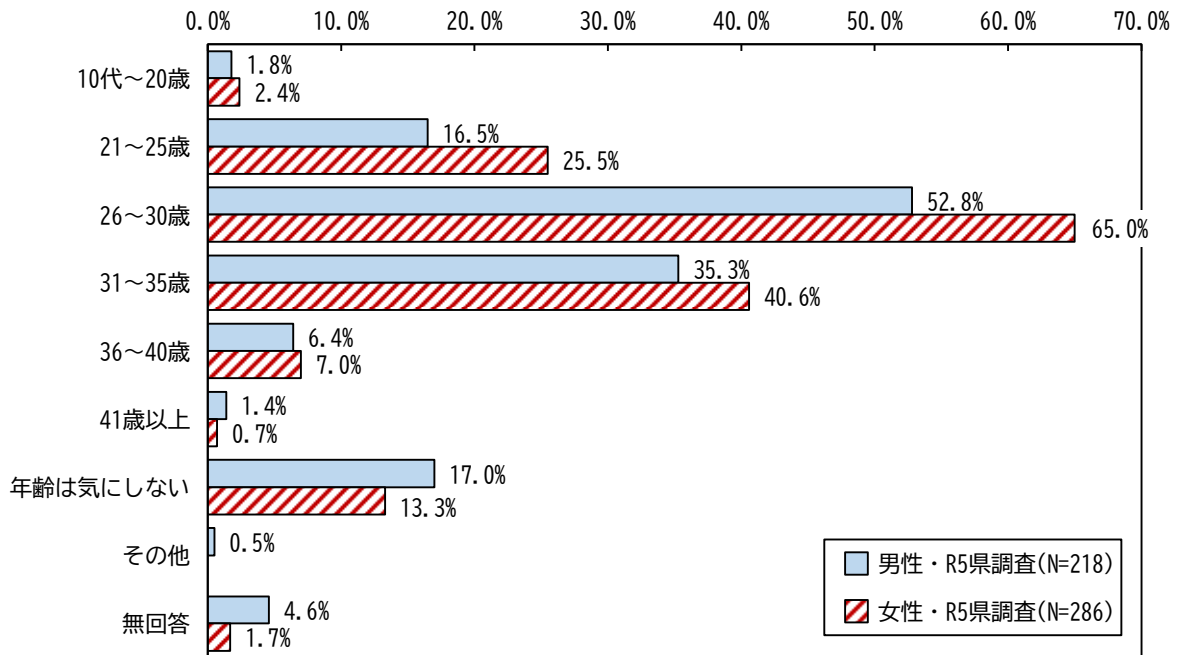


※結婚経験のない20～39歳  
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査



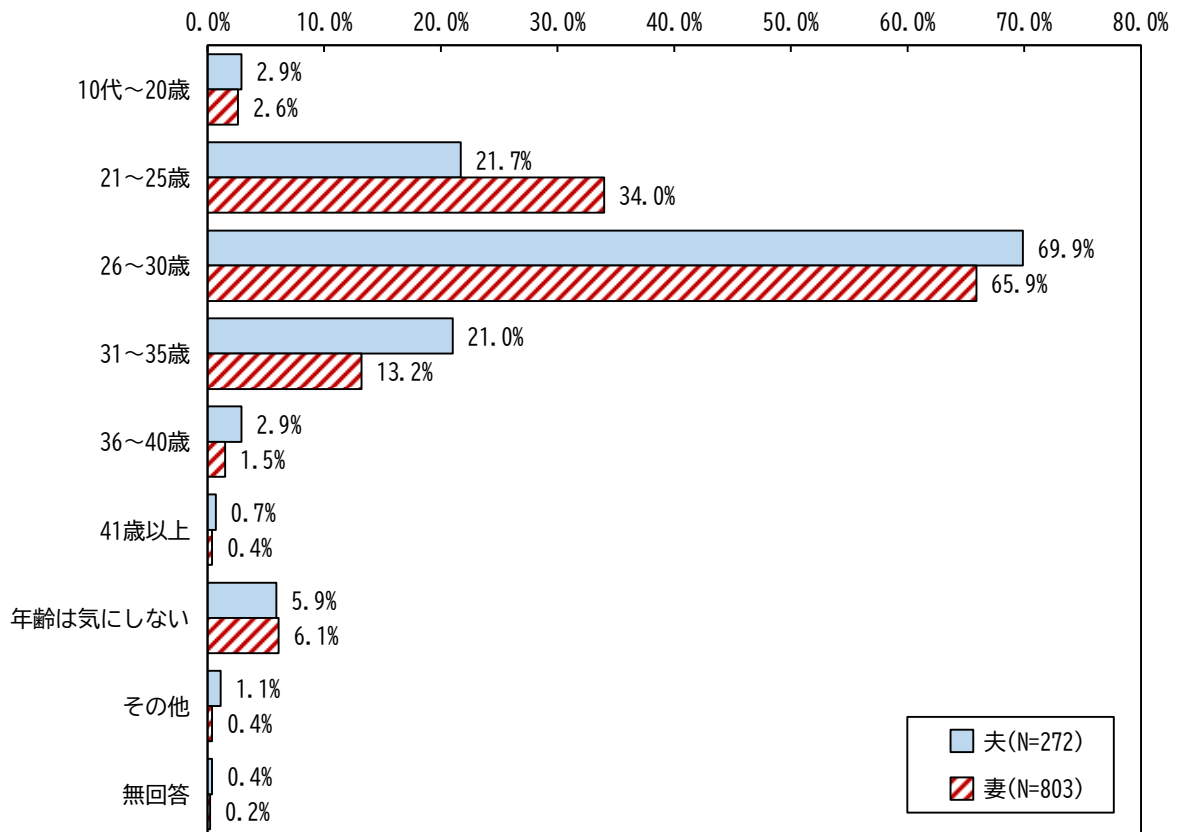
## ◇理想的な初婚年齢

<理想的な初婚年齢（未婚者）>



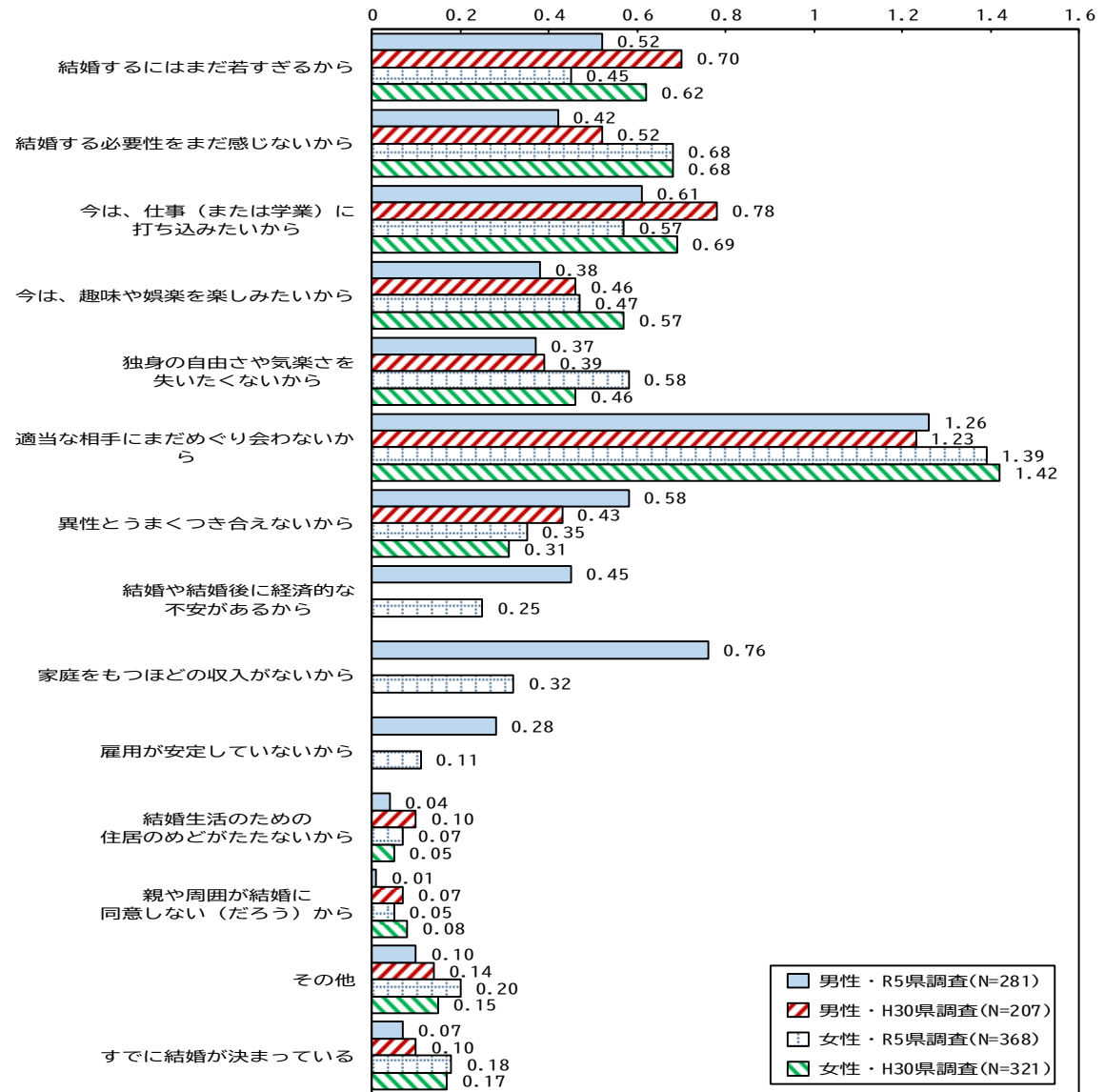
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

<理想的な初婚年齢（既婚者）>



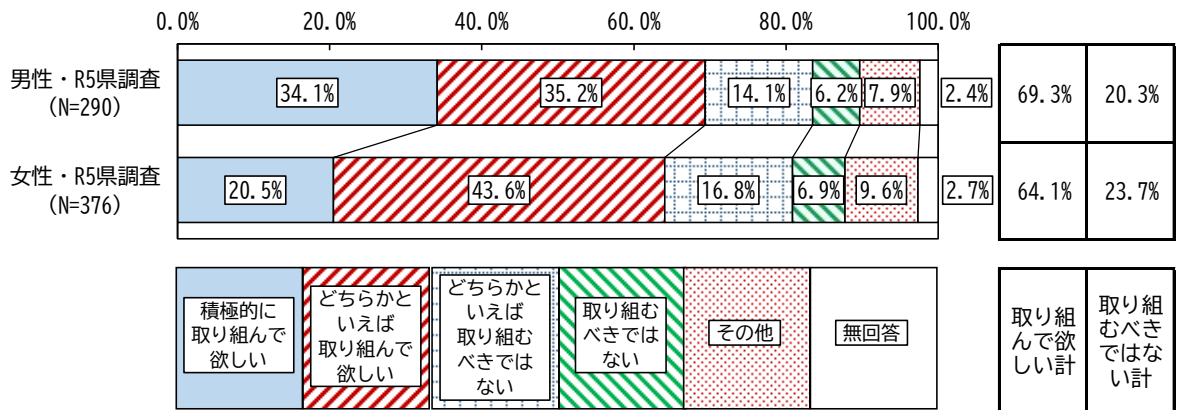
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ◇現在独身でいる理由



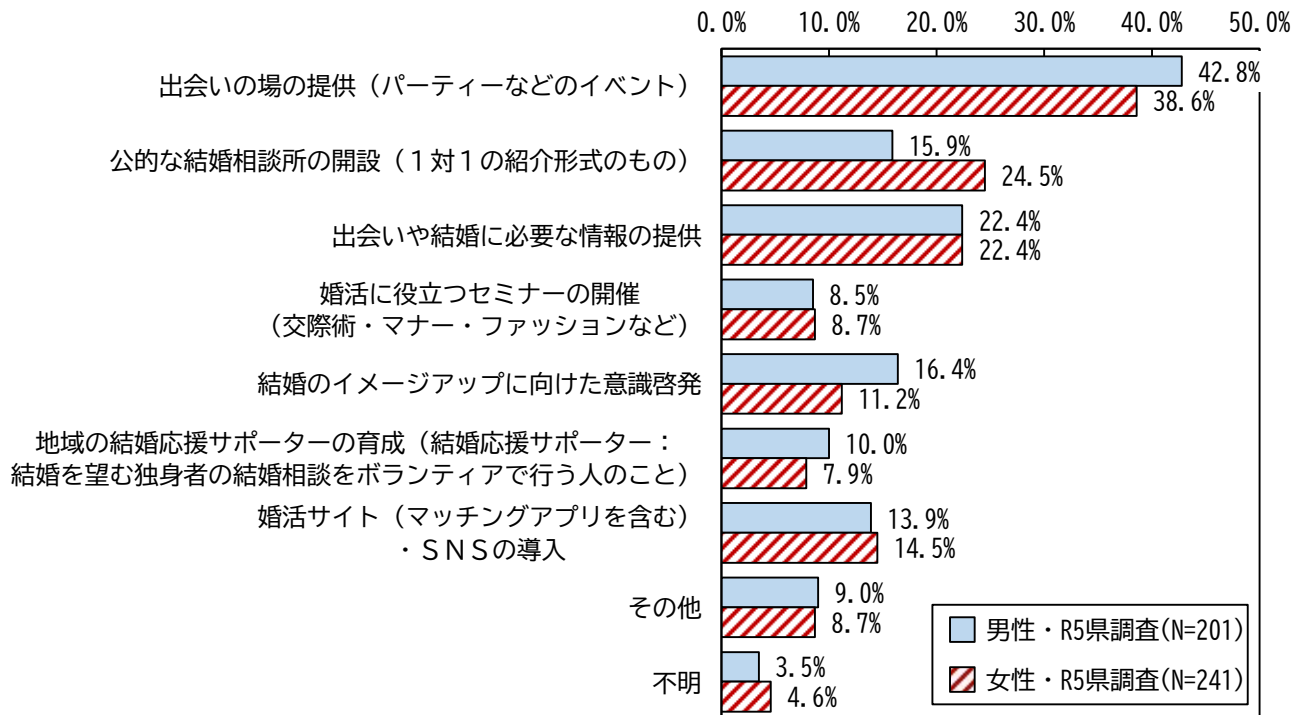
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ◇行政の結婚支援施策に対する期待



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

## ◇期待する結婚支援施策



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

## ② 若者の就労状況

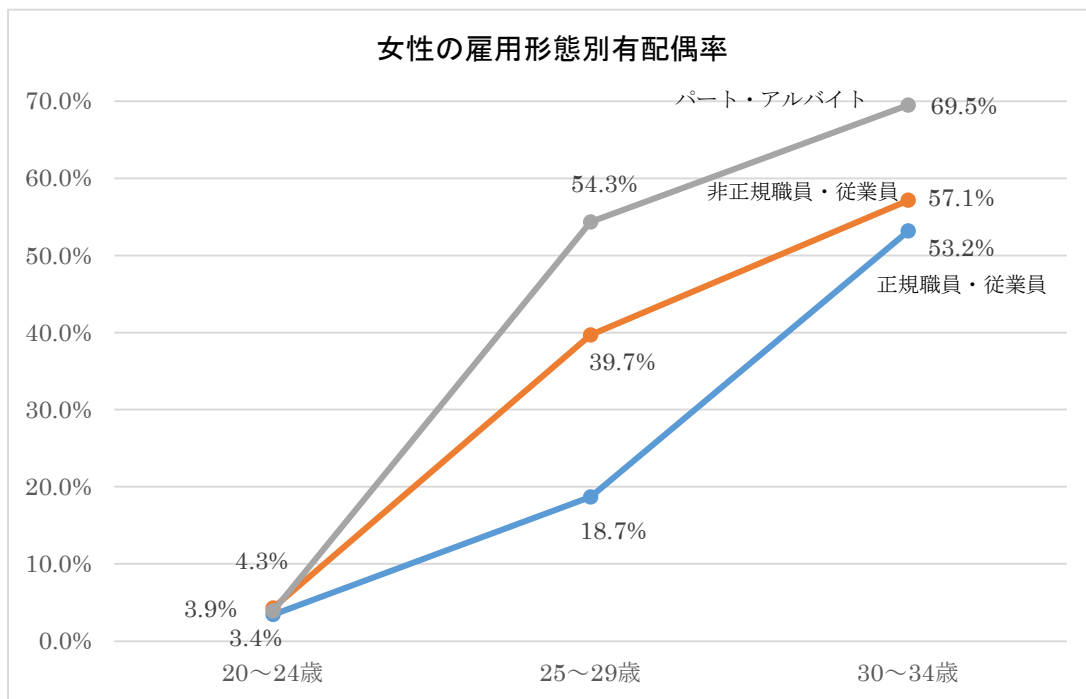
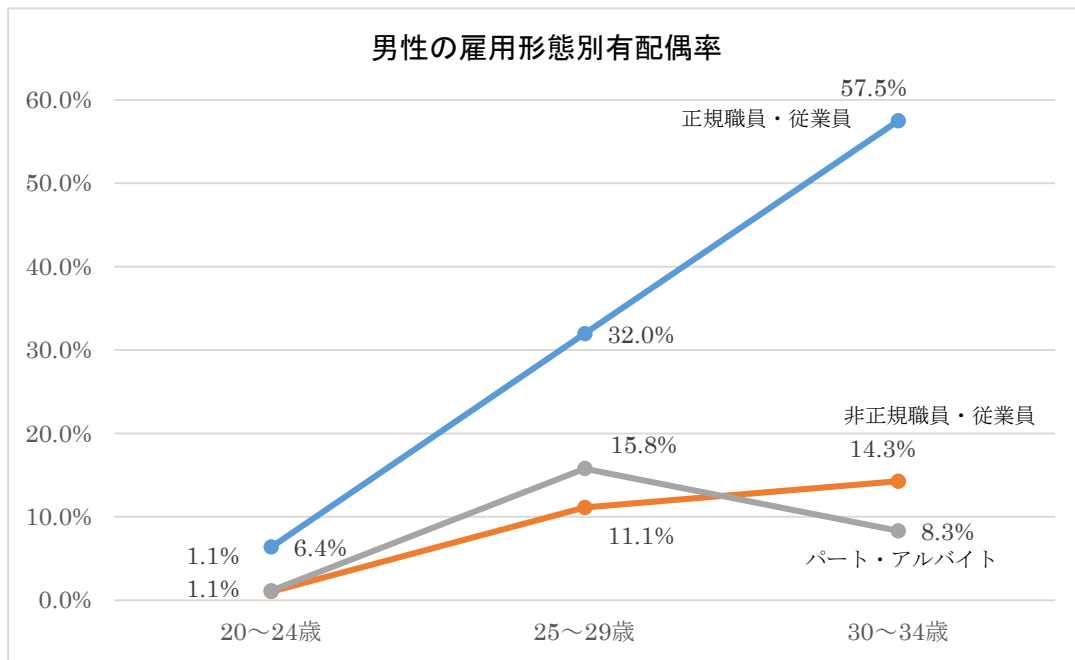
奈良県の男性の非正規雇用割合は全国に比べ高く、全年代では24.6%（全国3位）ですが、若年者層※（15～34歳）では28.8%で全国4位です。奈良県の女性は、全年代では57.6%（全国3位）で、若年者層（15～34歳）では41.9%で全国6位です。

### ◇非正規雇用の割合

＜若年者(15～34歳) 男性＞			＜若年者(15～34歳) 女性＞		
都道府県	非正規雇用率	順位	都道府県	非正規雇用率	順位
全国	23.4%	—	全国	37.6%	—
沖縄県	30.8%	1位	沖縄県	46.8%	1位
大阪府	29.8%	2位	福岡県	44.1%	2位
京都府	29.4%	3位	京都府	43.5%	3位
奈良県	28.8%	4位	奈良県	41.9%	6位
山形県	16.6%	46位	秋田県	30.0%	46位
香川県	16.0%	47位	山形県	29.8%	47位

※「通学が主な者」で、「仕事は従な者」を含む  
出典：総務省「令和4年就業構造基本調査」

◇雇用形態別有配偶率



出典：総務省「令和4年就業構造基本調査」

### ③困難を抱える若者の状況

県内のひきこもり者は1万人以上と推計され、うち若者（15～39歳）が約6千人と推計されています。

ひきこもり相談窓口で対応した当事者の年齢層は10代の相談は21%、20代～30代で46%を占め、40代～50代以上の相談は23%となっており、高齢化の傾向となっています。

相談窓口で最初に相談されるのは、当事者の母からの相談が44%を占めており、次いで当事者本人からが15%となっています。

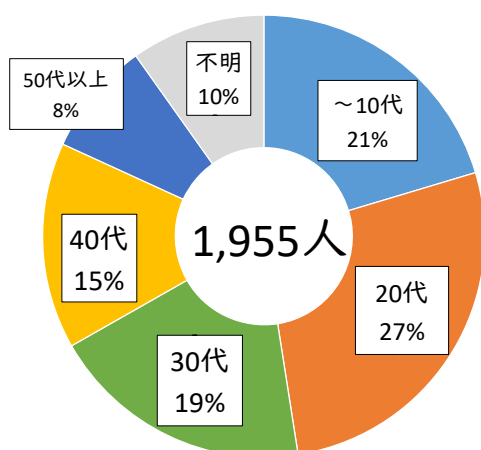
ひきこもり年数は3年未満が29%、3～10年が17%、10年以上は10%となっています。

当事者の性別は、男性が68%、女性が25%と、特に男性が多くなっています。

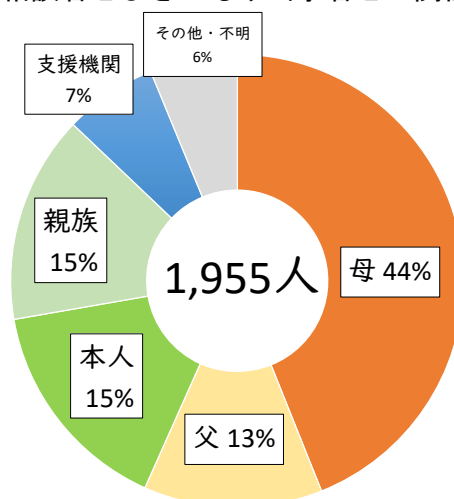
ひきこもりの実態は見えにくく、相談に至っていないケースが多いことが推測されます。

#### ◇ひきこもり当事者の状況〔平成27年度～令和4年度末現在〕

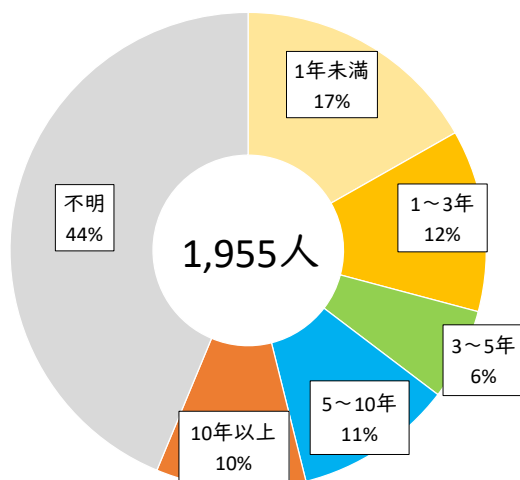
＜相談のあった当事者の年齢構成＞



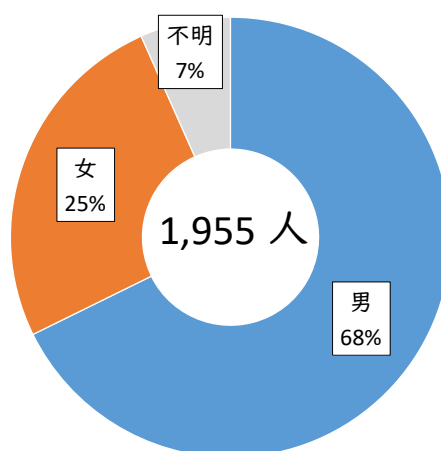
＜最初の相談者とひきこもり当事者との関係＞



＜ひきこもり年数＞



＜ひきこもり当事者の性別＞



出典：奈良県教育振興課調べ

## (4) 結婚・子育ての場所としての評価

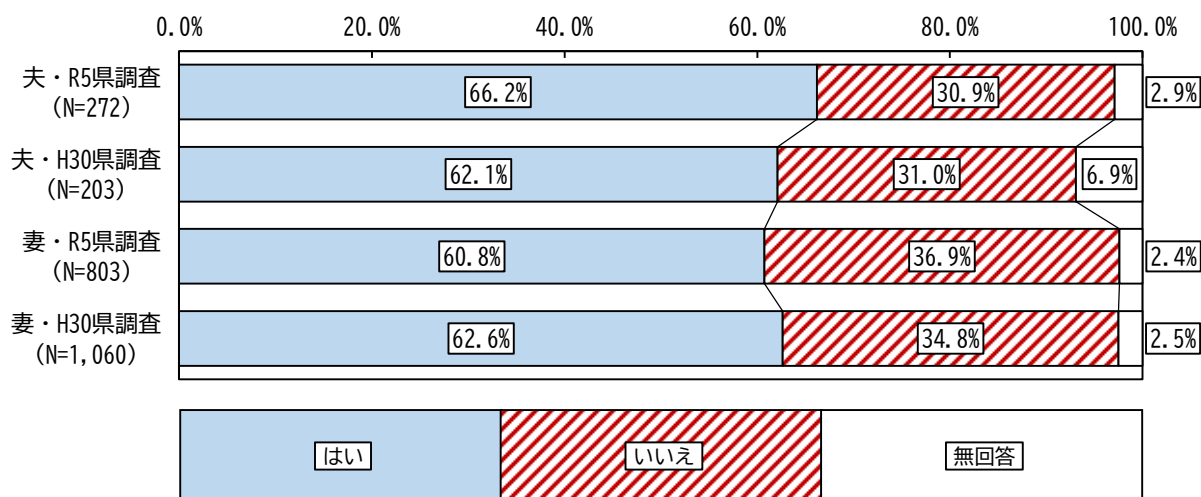
### ①既婚者の評価

奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思う既婚者の割合は、夫で66.2%、妻で60.8%と、夫の方が5.4ポイント高くなっています。

結婚して子どもを産み育てやすいと思う理由では、「緑が多いなど自然環境がよいから」が夫で64.4%、妻で70.9%と最も多く、次いで、「買物など日常の生活環境が整っているから」が夫で61.1%、妻で58.8%、「通勤・通学に便利だから」が夫で42.2%、妻で39.3%となっています。

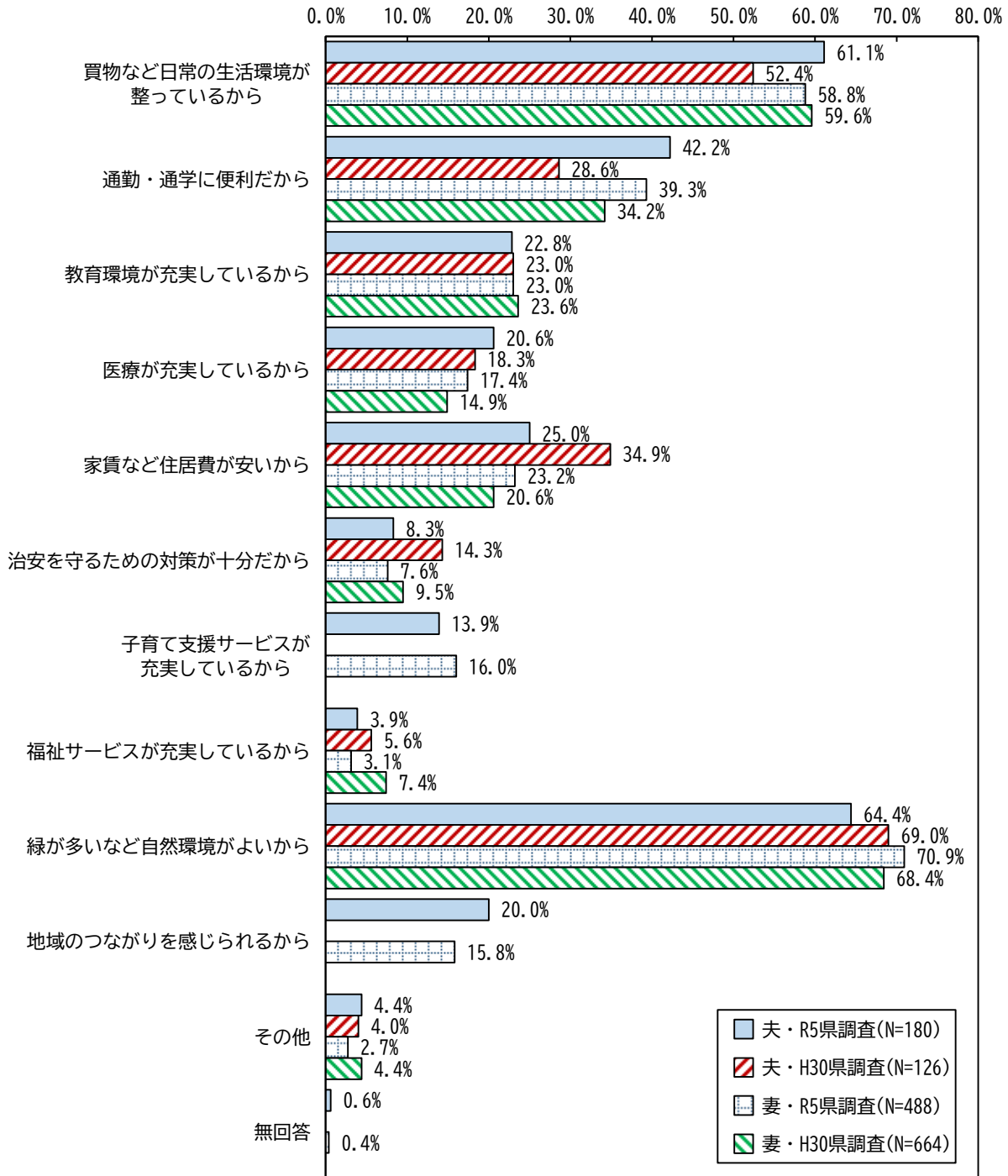
一方、結婚して子どもを産み育てにくいと思う理由では、「子育て支援サービスが充実していないから」が夫で64.3%、妻で64.5%とほぼ同程度で最も多く、次いで、「通勤・通学に不便だから」が夫で54.8%、妻で49.3%、「教育環境が充実していないから」が夫で52.4%、妻で37.8%となっています。

### ◇奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところか



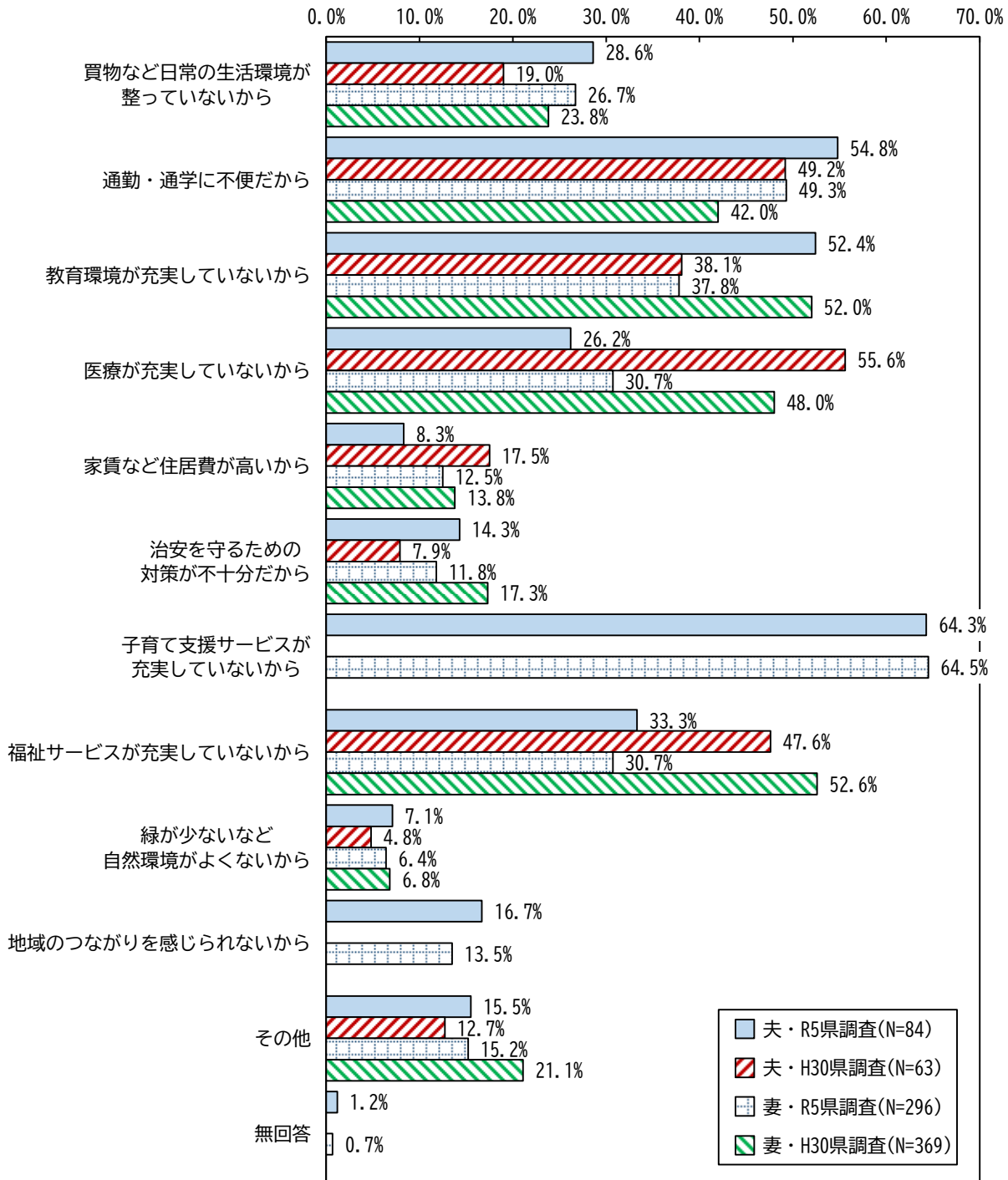
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ◇結婚して子どもを子育てしやすいところだと思う理由



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

◇結婚して子どもを子育てしやすいところだと思わない理由



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査



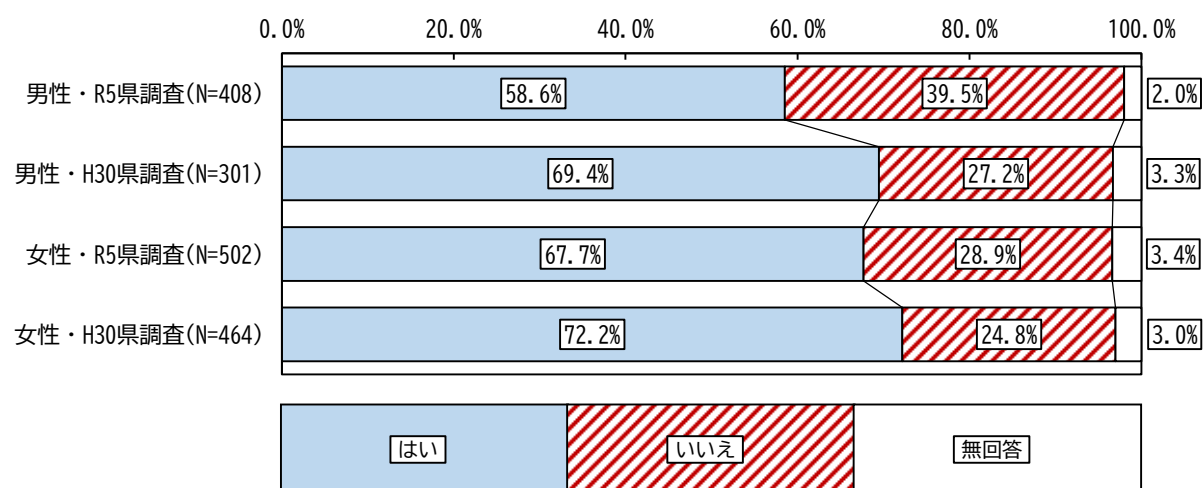
## ②未婚者の評価

奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思う未婚者の割合は、男性が58.6%、女性が67.7%となっています。

子どもを生き育てやすいところだと思う理由では、「緑が多いなど自然環境がよいから」が男性で61.5%、女性で66.8%と最も多く、次いで、「買物など日常の生活環境が整っているから」が男性で49.0%、女性で48.2%、「通勤・通学に便利だから」が男性で37.7%、女性で42.1%となっています。

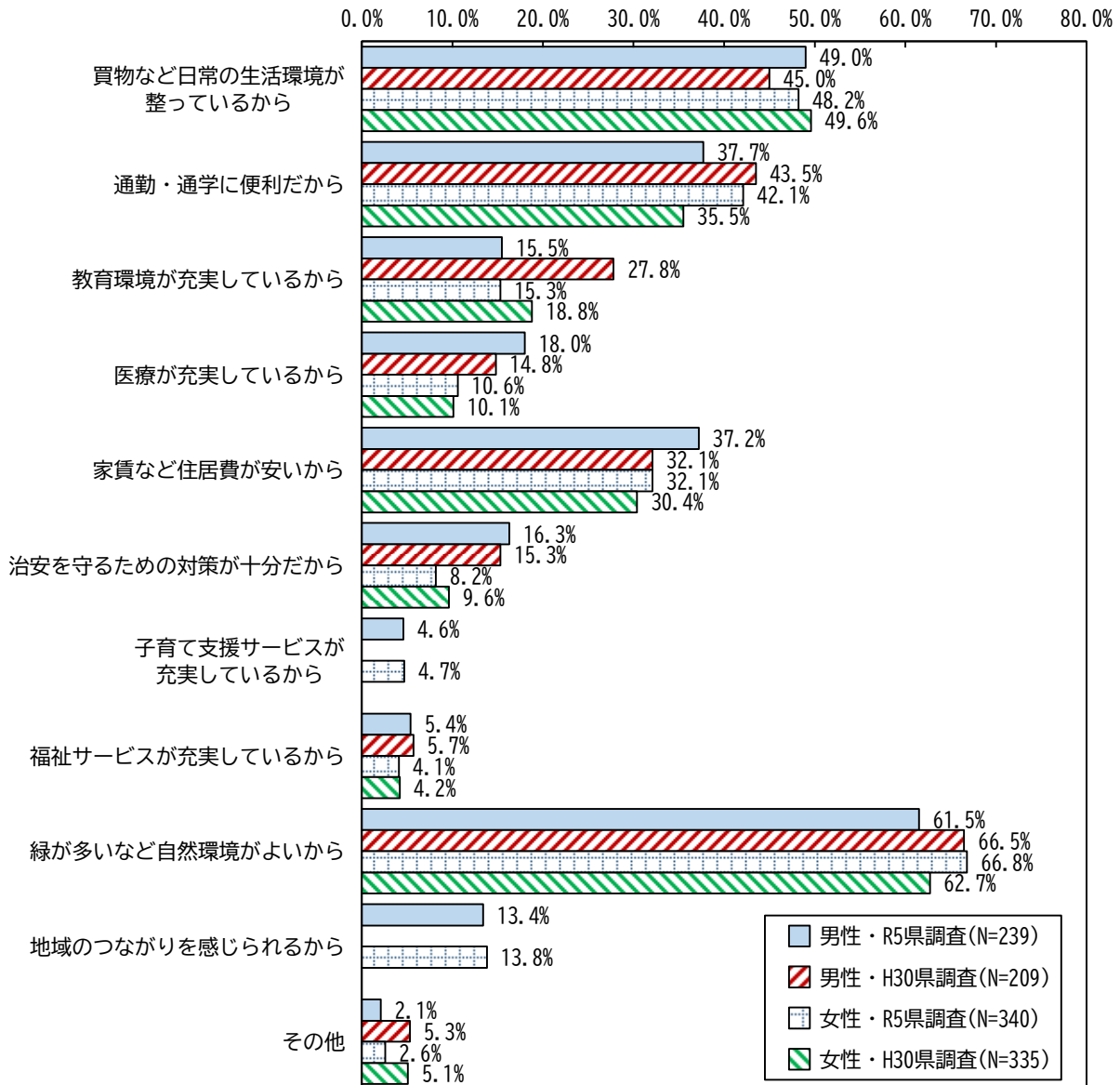
一方、子どもを生き育てやすいところだと思わない理由では、「通勤・通学に不便だから」が男性で55.3%、女性で49.0%と最も多く、次いで「子育て支援サービスが充実していないから」が男性で33.5%、女性で45.5%、「買物など日常の生活環境が整っていないから」が男性で34.8%、女性で32.4%となっています。

### ◇奈良県は子どもを生き育てやすいところか



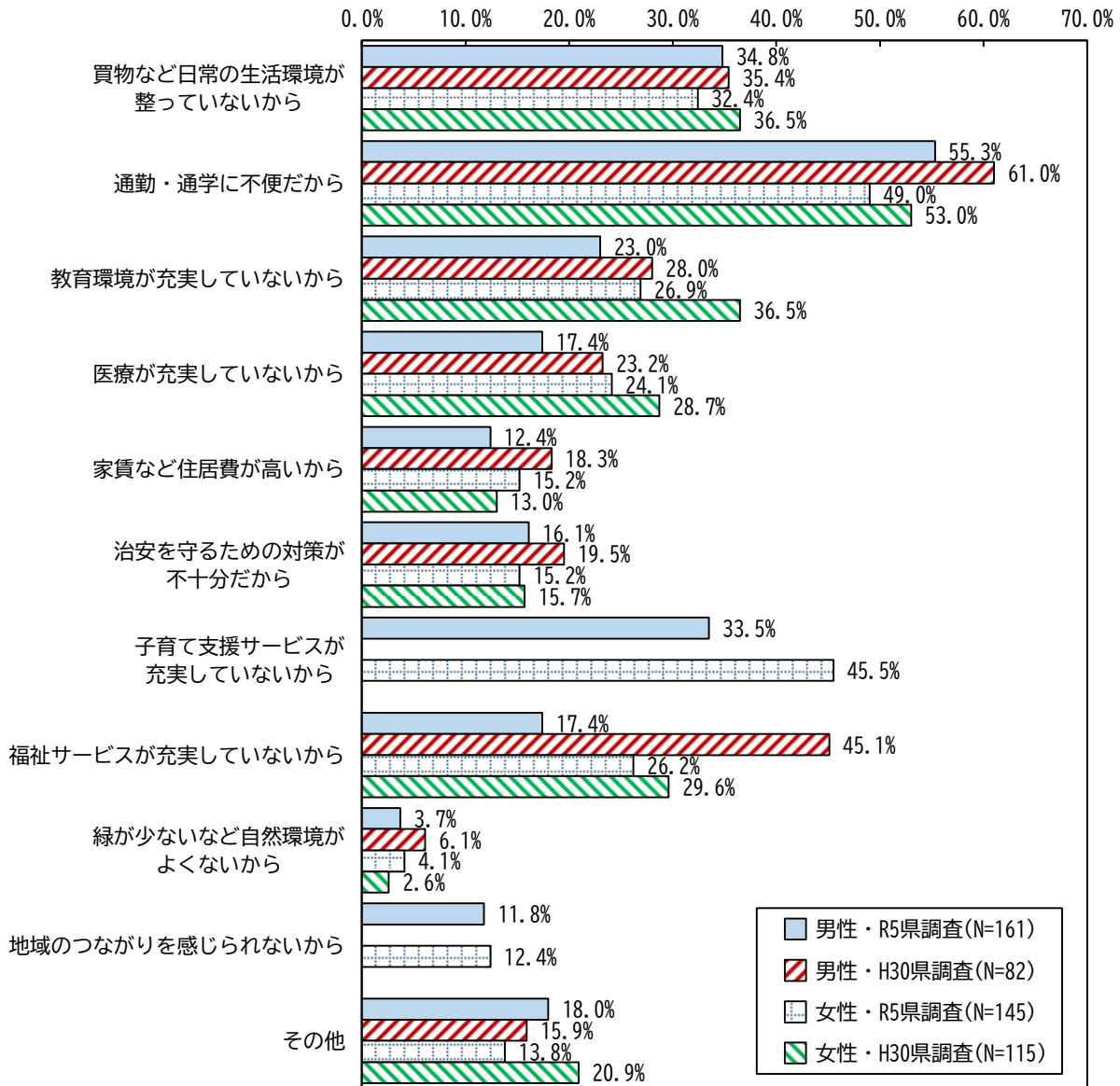
出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ◇子どもを生き育てやすいところだと思う理由



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査

### ◇子どもを生き育てやすいところだと思わない理由



出典：令和5年奈良県結婚・子育て実態調査